

# 潮見市営住宅B棟建設機械設備工事

[illegible]







	項 目	特 記 事 項		項 目	特 記 事 項		項 目	特 記 事 項		項 目	特 記 事 項																					
●空調 と 冷暖房 設備	▶ 1. 空気調和・冷暖房方式	方式 ○ 全空気 ○ 空気－水 ○ 全水 ○ 冷媒式 ○ 蒸気暖房 ○ 温水暖房 ○ 温風暖房 ● F F 式暖房機 ○ 電気暖房 熱源 ○ 蒸気 ○ 温水 ○ 冷水 ○ 冷水 ○ 冷水 ○ 電気 ○ ガス ● その他（灯油）	●給 水 設 備	▷ 5. 受水槽	イ. ○ 上水用（ ） ○ 本工事 ○ 別途工事 ロ. ○ 井水用（ ） ○ 本工事 ○ 別途工事 ハ. 制御方法 ○ フロートレススイッチ ○ ポールタップ・定水位調整弁 ○ その他（ ） ニ. 警 報 ○ 満水 ○ 減水 ○ 低水位遮断 ○ 故障	○環 境 配 慮 改 修 工 事	▷ 1. アスベストの処理工事	建材のアスベスト含有調査は、次による なお含有調査の結果、設計図面と異なる場合は、工事監督員と協議する ○ 含有調査：（ ） （調査部位： ） ○ 含有調査済：含有建材等は、図面による 分析方法は、JIS A1481「建材製品中のアスベスト含有率測定法」とする 処理の工法（9.1.1） 除去工事（公共建築改修工事標準仕様書及び以下による） 施工調査 ○ 行う ○ 行わない（9.1.2 9.1.3） アスベスト粉じん濃度測定 ○ 行う ○ 行わない（9.1.2）	●そ の 他	(22) 各種室内機等のリモコン設置位置、個数、室内温度設定器位置については、係員の指示を受けること (23) 送排風機の注油口位置、ベルトカバーの取り付け方法については、メンテナンスに十分配慮したものであること (24) 配管類は、機器廻り等必要箇所に取り外しを容易にするためのフランジ継手を設けること (25) 配管には、必要箇所には空気抜き管、水抜き管を設けること (26) 屋外に埋設する配管は重量車両通行場所について耐荷重対策をすること (27) 居室天井内衛生配管等で騒音発生が予想されるものには、鉛巻きを行うこと (28) 各種配管の識別表示を行うこと (29) ステンレス鋼管の施工は、消防予第11号に基づき行うこと (30) ガスヒートポンプ冷暖房機定格能力、電気特性、燃料消費量は J 1 S B 8 2 2 7 に規定された定格条件による。 (31) 電動ヒートポンプ冷暖房機定格能力、電気特性は J 1 S B 8 6 1 6 に規定された定格条件による。 (32) 総合調整、性能試験、工程計画等を記載した総合調整計画書を作成し提出する事 (33) 地盤沈下が想定される場合は、フレキ管の使用及び基礎へのブラケット支持など適切な対策を行うこと (34) 屋外、ビッド、多湿箇所に設置する吊金物、ボルト、ナット類は溶融亜鉛メッキ施したもの又はステンレス製とする (35) 冷温水管の呼び径65A以上はバタフライ弁とする (36) 給水圧3.0kg/m2を超える系統は減圧弁を設置すること (37) 認定工法にて施工する場合、監理者に仕様書及び認定書を提出し確認すること (38) 電動ヒートポンプエアコン室外機のドレン結水対策を考慮すること (39) 居室天井内衛生配管等で騒音発生が予想されるものには、鉛巻きを行うこと (40) エアフィルターについては取り付け位置、寸法、枚数、メーカー等を全て記入すること (41) 施工図には防火区画、防煙区画、防火上主要な間仕切り、延焼ライン等を記載すること (42) 施工図作成に先立ち、床・壁・天井の総合図を作成し監理者・発注者の確認を受けること																						
	▷ 2. 主要熱源機器及び付属機器	図内機器表による 容量等の表示、機器類の能力、容量等（電動機出力は除く）は、原則として表示された数値以上とする		▷ 6. 給水装置	イ. 給水ポンプ ○ 揚水用ポンプ ○ 床置型 ○ 水中型 ○ インバーター方式 ○ 直結給水7-スター方式 ○ 小形給水ポンプユニット ○ その他（ ） ロ. 圧力タンク ○ 自動空気補給式 ○ 隔膜式 ○ その他（ ） ハ. 高置水槽 ○ F R P 製（ ） ○ そ の 他（ ） ニ. 制御方法 ○ フロートレススイッチ ○ 圧力スイッチ ○ その他（ ） ホ. 警 報 ○ 満水 ○ 減水 ○ 低水位遮断 ○ 故障		▷ 2. 除去工事共通事項	(1) 作業主任者 アスベスト含有建材の除去は、石綿作業主任者技能講習又は、平成18年3月以前の特定化学物質等作業主任者技能講習を修了した者のうちから、アスベスト作業主任者を選任し、必要な管理を行わせる (2) 除去作業者 アスベスト含有建材の除去に従事する作業者（以下「除去作業者」という）は、石綿障害予防規則に基づく特別教育を受けた者とする また、除去作業者は、一般健康診断、石綿健康診断、じん肺健康診断を受診した者とし、肺機能に異常がない者とする (3) 表示及び掲示 施工範囲の出入口に、「アスベスト作業主任者名と職務の内容、関係者以外立入禁止、喫煙・飲食の禁止、アスベスト作業中等」の表示を行う また、アスベストの有害性、取扱上の注意事項、使用すべき保護具の掲示を行う (4) 保護具・保護衣 除去作業者は、作業内容に応じた呼吸用保護具、保護めがねを使用するとともに、アスベストが付着しにくく、付着したアスベストが容易に除去できる作業衣又は、保護衣を着用する (5) 除去したアスベスト等の保管及び運搬 除去したアスベスト含有建材を搬出するまでの間、現場に保管する場合は、一定の保管場所を定め、他の内装材と分別して保管するものとし、シートで覆う等、飛散防止措置を講ずる また、保管場所には、アスベスト等の保管場所であることの表示を行う (6) 確認及び後片付け 除去作業が終了後、高性能真空掃除機で、床等を清掃する また、工事監督員の立会の上で、除去が十分行われていることを目視確認を受ける																								
	▷ 3. ばい煙濃度計	○ 設けない ○ 設ける		▶ 7. 引込納付金等	○ 不要 ○ 要（ ○ 別途工事 ● 本工事（審査手数料））		▷ 3. アスベスト含有保温材等の除去等	(1) 処理を行う保温材、耐火被覆板及び断熱材の種類及び除去 種類： _____ 除去： ○ 掻き落とし ○ 破砕 ○ 切断 ○ 作業場の隔離																								
	▷ 4. 煤じん量測定口	○ 設けない ○ 設ける（煙道直線部に100φ以上のフランジ蓋止とする）		▷ 8. 保温	鋼板製タンク及びステンレス鋼板製タンクの保温 ○ 要 ○ 不要		▷ 4. アスベスト含有成形板等の除去等	(1) 処理を行う成形板の種類 種類： _____ 種類： _____ 種類： _____																								
●設備 気	▶ 5. 放熱器	種別 ○ 鋳鉄製放熱器 ○ パネルヒーター ○ ファンコイルユニット ○ ヒートポンプユニット ○ ファンコンベクター ○ ユニットヒーター ○ パッケージエアコン ● F F 暖房機（別途リース品） ○ 電気ヒーター ○ 遠赤外線暖房機 ○ コンベクター ○ ペースボードヒーター ○ その他（ ）	●排 水 設 備	▶ 9. 管の埋設深さ	※ 水道事業者の指定深度（ ○ 土被りGL-1000H ）	○そ の 他	▶ 1. 使用機材	○ メーカーリスト <table><tr><th>機 器 名</th><th>指 定</th><th>製 造 所</th></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr></table>	機 器 名	指 定	製 造 所																					
	機 器 名	指 定		製 造 所																												
▷ 6. VAV・CAV	○ 定風量ユニット ○ 変風量ユニット	▶ 10. その他	○（ ）	▶ 2. その他	(1) 防火区画貫通部の隙間はモルタル又は不燃材を充填する 防火区画貫通配管：冷媒管貫通処理 PSO60FL-0776（床） PSO60WL-0777（壁） PSO60WL-0774（中空壁）認定品 防火区画貫通配管：排水耐火二層管貫通処理 PSO60FL-0383（床） PSO60WL-0380（壁） PSO60WL-0312（中空壁）認定品 国土交通大臣認定工法、国土交通省・日本消防設備安全センター認定品 (2) 防火ダンパーの構造他は昭和48年建設省告示第2565号及び平成12年建設省告示第1376号に適合 (3) 建築設備の構造方法は、平成12年建設省告示1388号、1389号に規定される構造とする (4) 配管設備の構造方法は、昭和50年建設省告示1597号について、下記●印を適用する 第1. ●一：給水管 二：給水タンク及び貯水タンク 第2. ●一：排水管 二：排水槽 ●三：排水トラップ ●四：阻集器 ●五：通気管 六：排水再利用配管設備 (5) 水栓とあふれ面の吐水口空間を確保のこと (6) ウォーターハンマー防止の措置を講じる (7) 衛生器具に設ける排水トラップはJIS A 5207、床排水に設ける排水トラップはJIS A 4002による (8) 排水量と排水管の勾配及び勾配を算出する手法は、排水負荷単位法とする (9) 満水時質量が15kgを超える給湯器の設置方法は国土交通省告示平成24年 第1447号に基づいて施工すること ガス瞬間湯沸器：木ねじ（呼び径5.1φ、長さ32mm）を4本使用し固定すること 電気温水器：タッピンねじ（呼び径5φ、長さ50mm）4本使用し床に固定（耐震用脚RHE706使用：TOTO）、又は、木ねじ（呼び径4φ、長さ35mm）を8本使用し（耐震用脚RHE707使用：TOTO）固定すること (10) 工事作業に伴う、埃・音・臭い対策のための仮設は、その範囲・仕様・施工順序等について発注者・監理者と協議のうえ行うこと (11) 諸官庁への届出・協議・それに伴う資料の作成・申請に関わる費用は受注者が負担すること (12) インバータ機器は高調波対策を行うと共に、電力会社の仕様に合わせてこと (13) 気象条件が建築設備設計基準に近い日に室温測定を行い、最適な運用が出来るよう検証及び機器調整を行うこと (14) 上記に伴う費用は受注者が負担すること (15) 施工に伴う作成する図面はCADデータも提出すること (16) 充分な安全対策と清掃・養生等の周辺対策を行うこと (17) ドルゴ通気を設置した場合は、点検口を設置すること (18) 施工図、承認図を基にダクト系の静圧損失計算を行い、ダクトサイズファン動力の確認を行い監理者の確認を受けること (19) 施工図、承認図を基に配管系の圧力損失計算を行い、配管サイズポンプ動力の確認を行い、監理者の確認を受けること (20) エアフィルターについては取り付け位置、寸法、枚数、メーカー等を全て記入すること (21) 異種金属配管接合部には、電氣的絶縁処理を施すこと																											
▶ 7. 弁類等	冷温水及び冷却水の呼び径65A以上はバタフライ弁とする 油用の仕切弁、逆止弁はマレアル鋳鉄弁又は鋳鋼弁とする ステンレス鋼管に取付ける弁類は、ステンレス製とする ○ 伸縮管継手 ○ 防振継手 ○ 温度計 ○ 圧力計 ○ 瞬間流量計及び測定用タッピング	▶ 7. 引込納付金等	○ 不要 ○ 要（ ○ 別途工事 ● 本工事（審査手数料））			▶ 1. 衛生器具及び付属機器	● 国内器具表による																									
▷ 8. 熱源機器	図内機器表による 機器類の能力（電動機出力を除く）は原則として表示された数値以上とする	▶ 8. 排水	鋼板製タンク及びステンレス鋼板製タンクの保温 ○ 要 ○ 不要					▶ 1. 給湯方式	○ 給湯ボイラー（ ○ 単独 ○ 暖房併設 ） ○ 熱交換器 ○ 貯湯タンク ○ 泡湯沸器（ ○ 貯湯式 ○ 瞬間式 ） ○ 電気湯沸器（ ○ 貯湯式 ○ 瞬間式 ） ● その他（ガス給湯器リース品）																							
▶ 9. その他	●（「F F 暖房機用X17-7」のみ本工事）	▶ 9. 管の埋設深さ	※ 水道事業者の指定深度（ ○ 土被りGL-1000H ）							○ 形式 ○ 現場施工型 ○ ユニット型 処理対象 ○ 汚水 ○ 雑排水 ○ その他（ ） 処理水量（ m3/日 ）（ ）人槽 放流水水質（ B O D ppm ） ハ. フロアー設置場所 ○ 機械室内 ○ 浄化槽内 ○ その他（ ） ニ. ポンプ ○ 有 ○ 無 その他 設置浄化槽型式決定後直ちに施工承諾申請図及び計算書を監督職員へ提出すること																						
○排 煙 設 備	▶ 1. 換気方式	方式 ● 熱交換形換気扇 ● 換気扇（同時吸排気レンジフードファン） ○ ダクト式機械換気 ○ その他（天井型換気扇）	▶ 3. 浄化槽設備	イ. 方式 ○ 長時間ばっ気 ○ 回転板接触 ○ 接触ばっ気方式 ○ その他（ ） ロ. 形式 ○ 現場施工型 ○ ユニット型 処理対象 ○ 汚水 ○ 雑排水 ○ その他（ ） ハ. 蓋 ● 鋳鉄製（ ● 耐重 ○ 重量 ○ 軽量 ） ○ コンクリート製 ○ その他（ 市・町・村・型 ）	▶ 4. 引込納付金等						○ 不要 ● 要（ ○ 別途工事 ● 本工事 ）	●そ の 他	▶ 2. その他	(1) 防火区画貫通部の隙間はモルタル又は不燃材を充填する 防火区画貫通配管：冷媒管貫通処理 PSO60FL-0776（床） PSO60WL-0777（壁） PSO60WL-0774（中空壁）認定品 防火区画貫通配管：排水耐火二層管貫通処理 PSO60FL-0383（床） PSO60WL-0380（壁） PSO60WL-0312（中空壁）認定品 国土交通大臣認定工法、国土交通省・日本消防設備安全センター認定品 (2) 防火ダンパーの構造他は昭和48年建設省告示第2565号及び平成12年建設省告示第1376号に適合 (3) 建築設備の構造方法は、平成12年建設省告示1388号、1389号に規定される構造とする (4) 配管設備の構造方法は、昭和50年建設省告示1597号について、下記●印を適用する 第1. ●一：給水管 二：給水タンク及び貯水タンク 第2. ●一：排水管 二：排水槽 ●三：排水トラップ ●四：阻集器 ●五：通気管 六：排水再利用配管設備 (5) 水栓とあふれ面の吐水口空間を確保のこと (6) ウォーターハンマー防止の措置を講じる (7) 衛生器具に設ける排水トラップはJIS A 5207、床排水に設ける排水トラップはJIS A 4002による (8) 排水量と排水管の勾配及び勾配を算出する手法は、排水負荷単位法とする (9) 満水時質量が15kgを超える給湯器の設置方法は国土交通省告示平成24年 第1447号に基づいて施工すること ガス瞬間湯沸器：木ねじ（呼び径5.1φ、長さ32mm）を4本使用し固定すること 電気温水器：タッピンねじ（呼び径5φ、長さ50mm）4本使用し床に固定（耐震用脚RHE706使用：TOTO）、又は、木ねじ（呼び径4φ、長さ35mm）を8本使用し（耐震用脚RHE707使用：TOTO）固定すること (10) 工事作業に伴う、埃・音・臭い対策のための仮設は、その範囲・仕様・施工順序等について発注者・監理者と協議のうえ行うこと (11) 諸官庁への届出・協議・それに伴う資料の作成・申請に関わる費用は受注者が負担すること (12) インバータ機器は高調波対策を行うと共に、電力会社の仕様に合わせてこと (13) 気象条件が建築設備設計基準に近い日に室温測定を行い、最適な運用が出来るよう検証及び機器調整を行うこと (14) 上記に伴う費用は受注者が負担すること (15) 施工に伴う作成する図面はCADデータも提出すること (16) 充分な安全対策と清掃・養生等の周辺対策を行うこと (17) ドルゴ通気を設置した場合は、点検口を設置すること (18) 施工図、承認図を基にダクト系の静圧損失計算を行い、ダクトサイズファン動力の確認を行い監理者の確認を受けること (19) 施工図、承認図を基に配管系の圧力損失計算を行い、配管サイズポンプ動力の確認を行い、監理者の確認を受けること (20) エアフィルターについては取り付け位置、寸法、枚数、メーカー等を全て記入すること (21) 異種金属配管接合部には、電氣的絶縁処理を施すこと																		
	▶ 1. 排煙方式	方式 ○ 機械排煙 ○ その他（ ）	▶ 1. 排水方式	● 自然流下 ○ 強制排水	▶ 5. その他	換気ドレン、水抜ドレン、バルコニードレン及び耐火二層管は保温を施さない																										
	▶ 2. 排煙口	イ. 形状 ○ スリット形 ○ スイング形 ロ. 開放装置 ○ 手動 ○ 手動及び遠隔操作可能なもの	▶ 2. 排水樹及び蓋	イ. インパート樹 ○ コンクリート樹 ○ 角型 ○ 丸型 ○ 市販コンクリート管 ○ 現場打 ● 塩ビ樹【蓋 ○ 塩ビ ● T8】 ○ その他（ 市・町・村・型 ） ロ. ため樹 ○ コンクリート樹 ○ 角型 ○ 丸型 ○ 市販コンクリート管 ○ 現場打 ○ 塩ビ樹【蓋 ○ 塩ビ ● T8】 ○ その他（ 市・町・村・型 ） ハ. 蓋 ● 鋳鉄製（ ● 耐重 ○ 重量 ○ 軽量 ） ○ コンクリート製 ○ その他（ 市・町・村・型 ）																												
	▶ 3. 防煙ダンパー	イ. 復帰方式 ○ 遠隔式 ○ 手動式 ロ. 操作方式 ○ 電気 ○ その他（ ）	▶ 3. 浄化槽設備	イ. 方式 ○ 長時間ばっ気 ○ 回転板接触 ○ 接触ばっ気方式 ○ その他（ ） ロ. 形式 ○ 現場施工型 ○ ユニット型 処理対象 ○ 汚水 ○ 雑排水 ○ その他（ ） ハ. フロアー設置場所 ○ 機械室内 ○ 浄化槽内 ○ その他（ ） ニ. ポンプ ○ 有 ○ 無 その他 設置浄化槽型式決定後直ちに施工承諾申請図及び計算書を監督職員へ提出すること																												
▶ 4. 排煙風量測定	建築設備定期検査業務基準指導書（（財）日本建築設備安全センター）の排煙風量の検査方法に準ずる	▶ 4. 引込納付金等	○ 不要 ● 要（ ○ 別途工事 ● 本工事 ）																													
●給 油 設 備	▶ 5. 既設ダクトの再利用	運転再開前の処置 ※ 吸出口にフィルターをはさむ等の塵埃飛散防止対策 ※ 吸出口廻りの居室内壁面及び家具等の防塵対策 ○ ダクト内清掃	▶ 3. 浄化槽設備	イ. 方式 ○ 長時間ばっ気 ○ 回転板接触 ○ 接触ばっ気方式 ○ その他（ ） ロ. 形式 ○ 現場施工型 ○ ユニット型 処理対象 ○ 汚水 ○ 雑排水 ○ その他（ ） ハ. フロアー設置場所 ○ 機械室内 ○ 浄化槽内 ○ その他（ ） ニ. ポンプ ○ 有 ○ 無 その他 設置浄化槽型式決定後直ちに施工承諾申請図及び計算書を監督職員へ提出すること	▶ 5. その他	換気ドレン、水抜ドレン、バルコニードレン及び耐火二層管は保温を施さない	●そ の 他	▶ 2. その他	(1) 防火区画貫通部の隙間はモルタル又は不燃材を充填する 防火区画貫通配管：冷媒管貫通処理 PSO60FL-0776（床） PSO60WL-0777（壁） PSO60WL-0774（中空壁）認定品 防火区画貫通配管：排水耐火二層管貫通処理 PSO60FL-0383（床） PSO60WL-0380（壁） PSO60WL-0312（中空壁）認定品 国土交通大臣認定工法、国土交通省・日本消防設備安全センター認定品 (2) 防火ダンパーの構造他は昭和48年建設省告示第2565号及び平成12年建設省告示第1376号に適合 (3) 建築設備の構造方法は、平成12年建設省告示1388号、1389号に規定される構造とする (4) 配管設備の構造方法は、昭和50年建設省告示1597号について、下記●印を適用する 第1. ●一：給水管 二：給水タンク及び貯水タンク 第2. ●一：排水管 二：排水槽 ●三：排水トラップ ●四：阻集器 ●五：通気管 六：排水再利用配管設備 (5) 水栓とあふれ面の吐水口空間を確保のこと (6) ウォーターハンマー防止の措置を講じる (7) 衛生器具に設ける排水トラップはJIS A 5207、床排水に設ける排水トラップはJIS A 4002による (8) 排水量と排水管の勾配及び勾配を算出する手法は、排水負荷単位法とする (9) 満水時質量が15kgを超える給湯器の設置方法は国土交通省告示平成24年 第1447号に基づいて施工すること ガス瞬間湯沸器：木ねじ（呼び径5.1φ、長さ32mm）を4本使用し固定すること 電気温水器：タッピンねじ（呼び径5φ、長さ50mm）4本使用し床に固定（耐震用脚RHE706使用：TOTO）、又は、木ねじ（呼び径4φ、長さ35mm）を8本使用し（耐震用脚RHE707使用：TOTO）固定すること (10) 工事作業に伴う、埃・音・臭い対策のための仮設は、その範囲・仕様・施工順序等について発注者・監理者と協議のうえ行うこと (11) 諸官庁への届出・協議・それに伴う資料の作成・申請に関わる費用は受注者が負担すること (12) インバータ機器は高調波対策を行うと共に、電力会社の仕様に合わせてこと (13) 気象条件が建築設備設計基準に近い日に室温測定を行い、最適な運用が出来るよう検証及び機器調整を行うこと (14) 上記に伴う費用は受注者が負担すること (15) 施工に伴う作成する図面はCADデータも提出すること (16) 充分な安全対策と清掃・養生等の周辺対策を行うこと (17) ドルゴ通気を設置した場合は、点検口を設置すること (18) 施工図、承認図を基にダクト系の静圧損失計算を行い、ダクトサイズファン動力の確認を行い監理者の確認を受けること (19) 施工図、承認図を基に配管系の圧力損失計算を行い、配管サイズポンプ動力の確認を行い、監理者の確認を受けること (20) エアフィルターについては取り付け位置、寸法、枚数、メーカー等を全て記入すること (21) 異種金属配管接合部には、電氣的絶縁処理を施すこと																							
	▶ 1. 油種別	● 灯油 ○ A 重油 ○ 軽油	▶ 1. 給湯方式	○ 給湯ボイラー（ ○ 単独 ○ 暖房併設 ） ○ 熱交換器 ○ 貯湯タンク ○ 泡湯沸器（ ○ 貯湯式 ○ 瞬間式 ） ○ 電気湯沸器（ ○ 貯湯式 ○ 瞬間式 ） ● その他（ガス給湯器リース品）	▶ 5. その他	換気ドレン、水抜ドレン、バルコニードレン及び耐火二層管は保温を施さない																										
	▶ 2. 給油方式	● 個別給油方式 ○ 集中給油方式 ○ その他（ ）	▶ 1. 衛生器具及び付属機器	● 国内器具表による																												
	▶ 3. 地下オイルタンク	イ. 基礎杭 ○ 要 ○ 不要 ○ 本工事 ○ 別途工事 ロ. タンク室 ○ 要 ○ 鋼製強化プラスチック製二重設タンク 「危険物の規制に関する技術上の基準の細目を定める告示」によるほか 所轄消防署が承認したもの 防油堤 ○ 本工事 ○ 別途工事	▶ 1. 給湯方式	○ 給湯ボイラー（ ○ 単独 ○ 暖房併設 ） ○ 熱交換器 ○ 貯湯タンク ○ 泡湯沸器（ ○ 貯湯式 ○ 瞬間式 ） ○ 電気湯沸器（ ○ 貯湯式 ○ 瞬間式 ） ● その他（ガス給湯器リース品）																												
▶ 4. 地上オイルタンク	○ 屋外タンク ○ 屋内タンク ● 市販品 ○ 製作（板厚 mm） 「危険物の規制に関する技術上の基準の細目を定める告示」によるほか 所轄消防署が承認したもの 防油堤 ○ 本工事 ○ 別途工事	▶ 1. 給湯方式	○ 給湯ボイラー（ ○ 単独 ○ 暖房併設 ） ○ 熱交換器 ○ 貯湯タンク ○ 泡湯沸器（ ○ 貯湯式 ○ 瞬間式 ） ○ 電気湯沸器（ ○ 貯湯式 ○ 瞬間式 ） ● その他（ガス給湯器リース品）																													
●自 動 制 御 設 備	▶ 5. オイルサービスタンク	イ. 給油ポンプ ○ 設ける ○ 設けない ロ. 返油ポンプ ○ 設ける ○ 設けない	▶ 1. 衛生器具及び付属機器	● 国内器具表による	▶ 5. その他	換気ドレン、水抜ドレン、バルコニードレン及び耐火二層管は保温を施さない	●そ の 他	▶ 2. その他	(1) 防火区画貫通部の隙間はモルタル又は不燃材を充填する 防火区画貫通配管：冷媒管貫通処理 PSO60FL-0776（床） PSO60WL-0777（壁） PSO60WL-0774（中空壁）認定品 防火区画貫通配管：排水耐火二層管貫通処理 PSO60FL-0383（床） PSO60WL-0380（壁） PSO60WL-0312（中空壁）認定品 国土交通大臣認定工法、国土交通省・日本消防設備安全センター認定品 (2) 防火ダンパーの構造他は昭和48年建設省告示第2565号及び平成12年建設省告示第1376号に適合 (3) 建築設備の構造方法は、平成12年建設省告示1388号、1389号に規定される構造とする (4) 配管設備の構造方法は、昭和50年建設省告示1597号について、下記●印を適用する 第1. ●一：給水管 二：給水タンク及び貯水タンク 第2. ●一：排水管 二：排水槽 ●三：排水トラップ ●四：阻集器 ●五：通気管 六：排水再利用配管設備 (5) 水栓とあふれ面の吐水口空間を確保のこと (6) ウォーターハンマー防止の措置を講じる (7) 衛生器具に設ける排水トラップはJIS A 5207、床排水に設ける排水トラップはJIS A 4002による (8) 排水量と排水管の勾配及び勾配を算出する手法は、排水負荷単位法とする (9) 満水時質量が15kgを超える給湯器の設置方法は国土交通省告示平成24年 第1447号に基づいて施工すること ガス瞬間湯沸器：木ねじ（呼び径5.1φ、長さ32mm）を4本使用し固定すること 電気温水器：タッピンねじ（呼び径5φ、長さ50mm）4本使用し床に固定（耐震用脚RHE706使用：TOTO）、又は、木ねじ（呼び径4φ、長さ35mm）を8本使用し（耐震用脚RHE707使用：TOTO）固定すること (10) 工事作業に伴う、埃・音・臭い対策のための仮設は、その範囲・仕様・施工順序等について発注者・監理者と協議のうえ行うこと (11) 諸官庁への届出・協議・それに伴う資料の作成・申請に関わる費用は受注者が負担すること (12) インバータ機器は高調波対策を行うと共に、電力会社の仕様に合わせてこと (13) 気象条件が建築設備設計基準に近い日に室温測定を行い、最適な運用が出来るよう検証及び機器調整を行うこと (14) 上記に伴う費用は受注者が負担すること (15) 施工に伴う作成する図面はCADデータも提出すること (16) 充分な安全対策と清掃・養生等の周辺対策を行うこと (17) ドルゴ通気を設置した場合は、点検口を設置すること (18) 施工図、承認図を基にダクト系の静圧損失計算を行い、ダクトサイズファン動力の確認を行い監理者の確認を受けること (19) 施工図、承認図を基に配管系の圧力損失計算を行い、配管サイズポンプ動力の確認を行い、監理者の確認を受けること (20) エアフィルターについては取り付け位置、寸法、枚数、メーカー等を全て記入すること (21) 異種金属配管接合部には、電氣的絶縁処理を施すこと																							
	▶ 6. 遠隔式油量指示計	○ 設けない ○ 次により設ける a) 取付方法 ○ 専用蓋 ○ 油槽蓋内 ○ その他（ ） b) 指示ユニット：製造者標準型とし図示による	▶ 1. 給湯方式	○ 給湯ボイラー（ ○ 単独 ○ 暖房併設 ） ○ 熱交換器 ○ 貯湯タンク ○ 泡湯沸器（ ○ 貯湯式 ○ 瞬間式 ） ○ 電気湯沸器（ ○ 貯湯式 ○ 瞬間式 ） ● その他（ガス給湯器リース品）																												
	▶ 7. その他	○（ ）	▶ 1. 給湯方式	○ 給湯ボイラー（ ○ 単独 ○ 暖房併設 ） ○ 熱交換器 ○ 貯湯タンク ○ 泡湯沸器（ ○ 貯湯式 ○ 瞬間式 ） ○ 電気湯沸器（ ○ 貯湯式 ○ 瞬間式 ） ● その他（ガス給湯器リース品）																												
	▶ 1. 制御方式	○ 電気式 ○ 電子式 ○ デジタル式	▶ 1. 給湯方式	○ 給湯ボイラー（ ○ 単独 ○ 暖房併設 ） ○ 熱交換器 ○ 貯湯タンク ○ 泡湯沸器（ ○ 貯湯式 ○ 瞬間式 ） ○ 電気湯沸器（ ○ 貯湯式 ○ 瞬間式 ） ● その他（ガス給湯器リース品）																												
▶ 2. 計測範囲	○ 温度 ○ 湿度 ○ その他（ ）	▶ 2. 屋内消火栓箱	● H B - 1 A 型（ ● 易操作性 ） ○ H B - 1 B（易操作性） ○ H D - 1 4 型 ○ H D - C E ○ その他（ ）																													
▶ 3. 計測箇所	図示による	▶ 3. 消火ポンプユニット	● 揚水加圧（火災報知器と連動） ○ その他（ ） 図内機器表によるほか日本消防設備安全センターの認定証票が貼付されたもの 制御盤には火報起動リレー組込スペースを設けること																													
▶ 4. 計測機器	図内機器表による	▶ 1. 種類	○ 都市ガス（ ） ● 液化石油ガス ○ その他（ ）																													
▶ 5. 低圧屋内配線	標準仕様書（第4編 第2章第4節及び第3章第2節）による	▶ 2. 機器	図内機器表による																													
●給 水 設 備	▶ 1. 給水方式	● 水道直結方式 ○ 直結加圧給水方式 ○ 加圧給水方式（ ○ インバーター方式 ○ 圧力タンク方式 ） ○ 受水槽方式（ ○ 上水 ○ 井水 ） ○ 高置水槽方式（ ○ 上水 ○ 井水 ） ○ 圧力タンク方式（ ○ 上水 ○ 井水 ） ○ ポンプ直送方式（ ○ 上水 ○ 井水 ）	▶ 3. 施工	○ 都市ガス……………ガス事業者の責任施工とする ● 液化石油ガス……………標準仕様書第6編第3章による ○ その他のガス……………高圧ガス保安法の規定に基づく																												
	▶ 2. 屋外配管	本管施工内容 ● 既設配水管 ○ 配水管新設（ ○ 専用 ○ 布設替 ）	▶ 4. ガス漏れ警報設備	○ 有 ○ 無																												
	▶ 3. 量水器	● 借受品 ○ 新品購入（水道管理者指定品）	▶ 1. 厨房機器	○ 図内機器表による																												
	▶ 4. 量水器樹	○ 水道管理者指定品 ○ 図内規格品	○ 厨房機器																													



● 給水管・給湯管防火区画貫通部参考図

○ 冷媒管防火区画貫通部参考図

● 鋼管類による防火区画貫通部参考図

貫通部において保温が必要無い場合。

貫通部において保温が必要な場合。

○ 排水・通気管防火区画貫通部 (塩化ビニル管) 参考図

● ダクト区画貫通部参考図

● 吐水口空間解説図

① 吐水口の口径D

② こま押さえ部分の内径

③ 給水栓の接続管の内径

以上三つの内径のうち最小内径を有効開口の内径D'として表す。

吐水口

壁からの離れ

近接壁1面

壁からの離れ

※壁からの離れは狭い方をとる

吐水口

壁からの離れ

近接壁2面

(A) 吐水口空間と有効開口の内径

(B) 吐水口の壁からの離れ

壁からの離れ

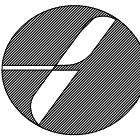
(2.5D'+4.0)mm

D':有効開口の内径[mm]

(C) 吐水口空間と有効開口の内径

(D) 吐水口の壁からの離れ

管種 構造区分	排水・通気管		
	給水管	おおいの無い場合	0.5mm以上の鉄板の覆いのある場合
	(肉厚6.6mm以上)	(肉厚6.6mm以上)	(肉厚7.0mm以上)
防火構造	115mm以下 (100A)	115mm以下 (100A)	141mm以下 (125A)
30分耐火構造	115mm以下 (100A)	115mm以下 (100A)	141mm以下 (125A)
1時間耐火構造	115mm以下 (100A)	90mm以下 (75A)	115mm以下 (100A)
2時間耐火構造	90mm以下 (75A)	61mm以下 (50A)	90mm以下 (75A)

 **株式会社ドーコン**

一級建築士事務所登録 (石) 2号  
建設コンサルタント登録 第105号  
一級建築士登録 第246349号 谷川 栄治

工事名	潮見市営住宅B棟建設機械設備工事	日付	図面番号
図面名	機械設備特記仕様書3	縮尺	03 M
		A1 NON A3 NON	



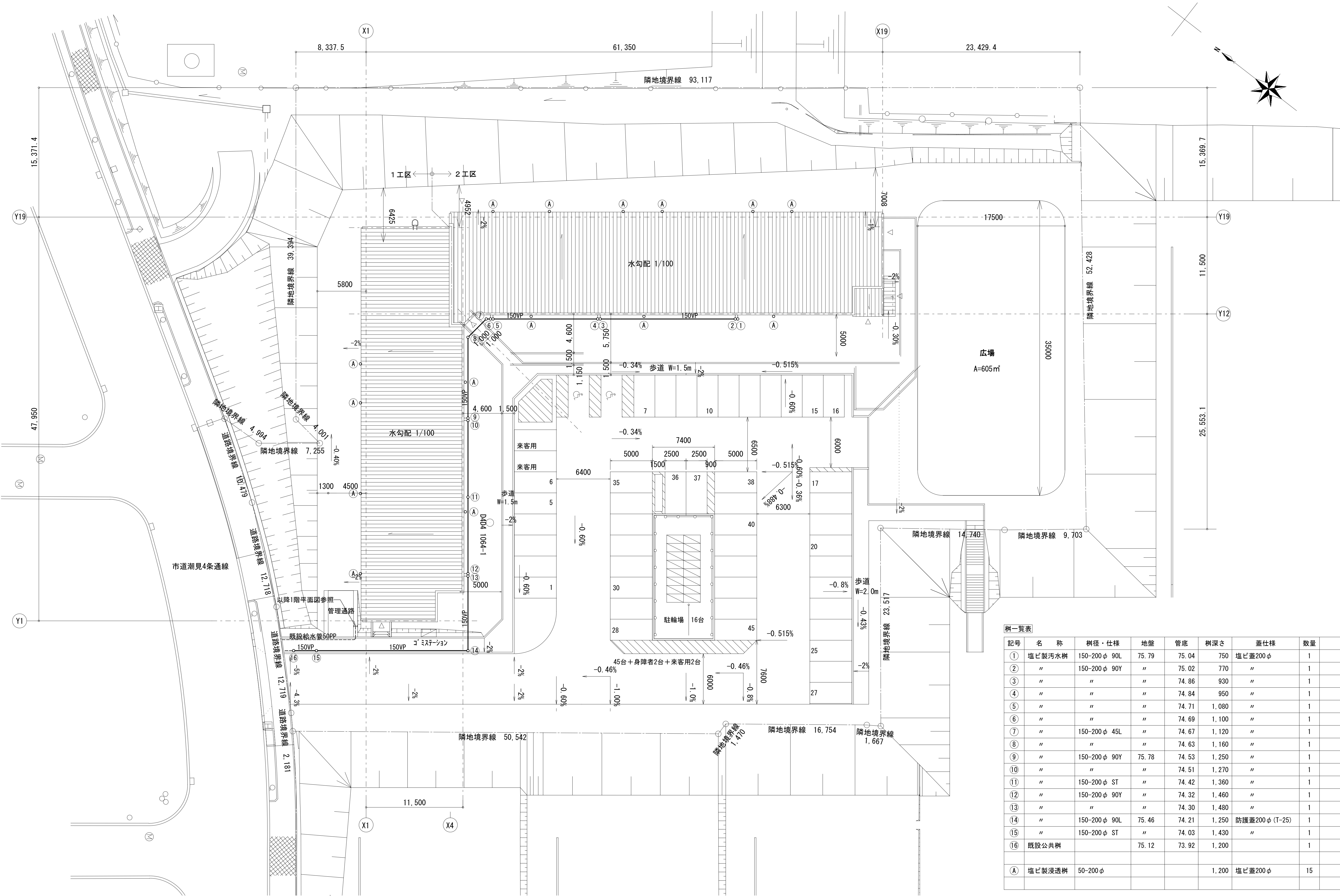
## 機器一覽表

記号	機 器 名 称	数量	仕 様 と し て の 付 属 品	電 源			設置場所	備 考
				相 対	電圧V	容量KW		参考型番同等品以上
HEX-1	熱交換型換気扇	30	顕熱交換器・天井埋込タイプ接続型、100φ×100CMH×80Pa フィルター・ドレンパン付、24時間換気用コントロールスイッチ共 深型モデル（SUS製・ギヤリ付）100φ×2共	1	100	0.042	UT天井内	三菱電機 VL-10CZ4-L・R
FU-1	フィルターボックス	30	壁掛型、100φ×100CMH×80Pa				UT	三菱電機 P-100FBK
RF-1	レンジフードファン	30	600幅 強制同時給排気タイプ、高気密住宅仕様、電気式シャッター組込型、300CMH×40Pa 深型モデル（SUS製・ギヤリ付）150φ×2共 本体スイッチ付	1	100	0.175	DK、LDK	三菱電機 V-604QKE9
F-1	ストレートボックスファン	3	低騒音型 風量410m3/h 機外静圧：90Pa 防振吊 その他付属品一式	1	100	0.06	物置	三菱電機 BFS-50SUDC
F-2	壁掛扇	1	低騒音型 SUS製ウェザーカバー 防虫網 風量150m3/h 機外静圧：30Pa	1	100	0.03	オイルタンク置場	三菱電機 EX-20ST4-S
OT-1	灯油タンク	2	型式：鋼製 角型ホームタンク 容量950 L 標準脚 ストレーナ他標準付属品一式				オイルタンク置場	
OS-1	オイルサーバー	30	壁掛型灯油用、貯油量2.5L 揚油量18L/H 8m	1	100	0.014	PS	長府製作所 OS-303 A1
OM-1	灯油メーター	30	灯油用トリップメーター 口径8φ				PS	アズビル金門 NDR-6
EH-1	電気ヒーター	1	壁掛型、暖房能力 1.0KW、リモコン付	1	200	1.0	消火ポンプ室	インターナル NY-1000
GHW-1	給湯器	(30)	本体はガス品、(ガス焚き、FF式、水道直圧式、給湯専用、壁掛型) 給排気トップ及び給排気筒110φ×80φは本工事とする。	1	100		UT	
FPU-1	消火栓ポンプユニット	1	易操作性1号消火栓用、消防法適合品 300ℓ/min×70m、呼水槽・サクションパンプ付他付属品一式共 制御盤（消火水槽満減水・呼水槽減水警報端子付、進相コンデンサー付）共	3	200	7.5	消火ポンプ室	荏原 50MEFU457.5

## 器具一覽表

[illegible]

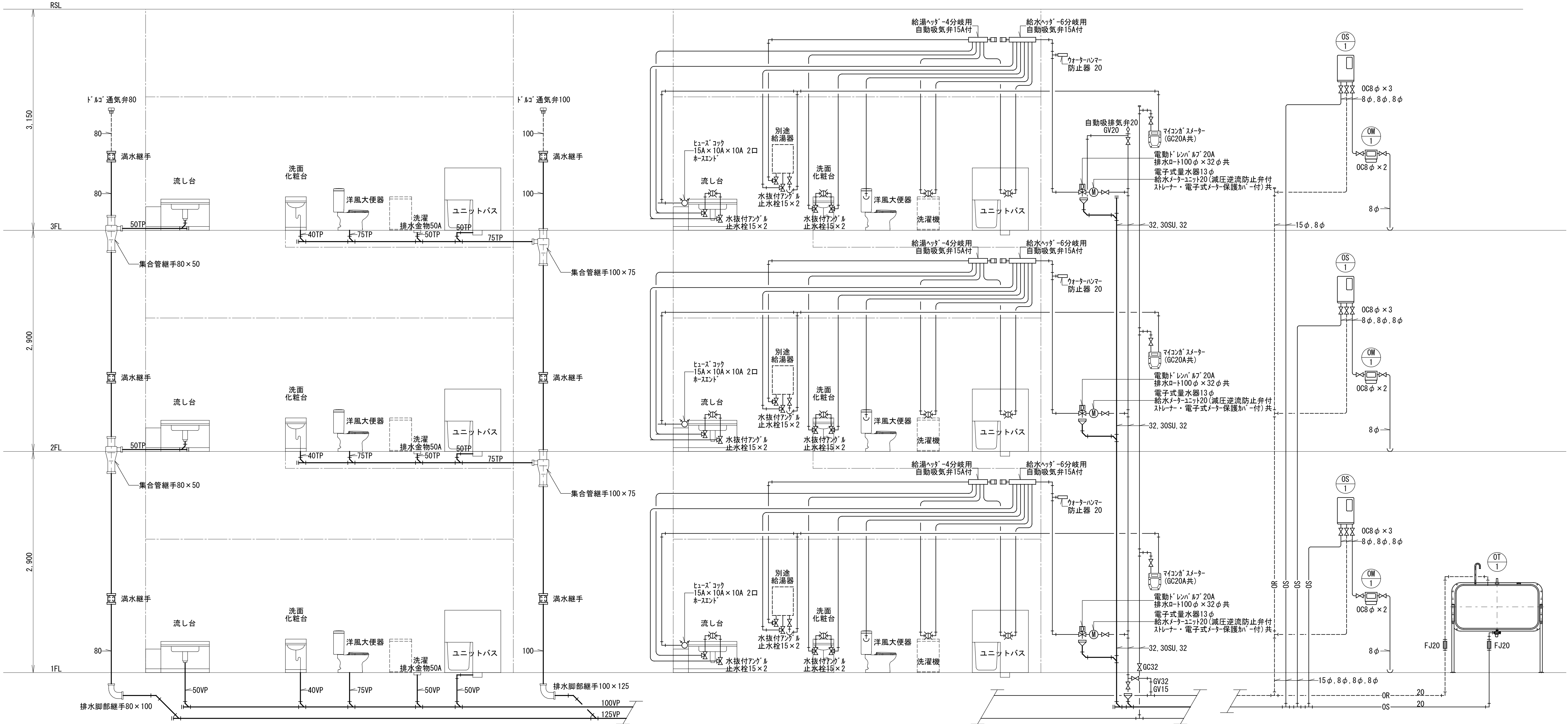




樹一覧表

記号	名 称	樹径・仕様	地盤	管底	樹深さ	蓋仕様	数量	備考
①	塩ビ製汚水樹	150-200φ 90L	75.79	75.04	750	塩ビ蓋200φ	1	
②	〃	150-200φ 90Y	〃	75.02	770	〃	1	
③	〃	〃	〃	74.86	930	〃	1	
④	〃	〃	〃	74.84	950	〃	1	
⑤	〃	〃	〃	74.71	1,080	〃	1	
⑥	〃	〃	〃	74.69	1,100	〃	1	
⑦	〃	150-200φ 45L	〃	74.67	1,120	〃	1	
⑧	〃	〃	〃	74.63	1,160	〃	1	
⑨	〃	150-200φ 90Y	75.78	74.53	1,250	〃	1	
⑩	〃	〃	〃	74.51	1,270	〃	1	
⑪	〃	150-200φ ST	〃	74.42	1,360	〃	1	
⑫	〃	150-200φ 90Y	〃	74.32	1,460	〃	1	
⑬	〃	〃	〃	74.30	1,480	〃	1	
⑭	〃	150-200φ 90L	75.46	74.21	1,250	防護蓋200φ (T-25)	1	
⑮	〃	150-200φ ST	〃	74.03	1,430	〃	1	
⑯	既設公共樹		75.12	73.92	1,200		1	
Ⓐ	塩ビ製浸透樹	50-200φ			1,200	塩ビ蓋200φ	15	



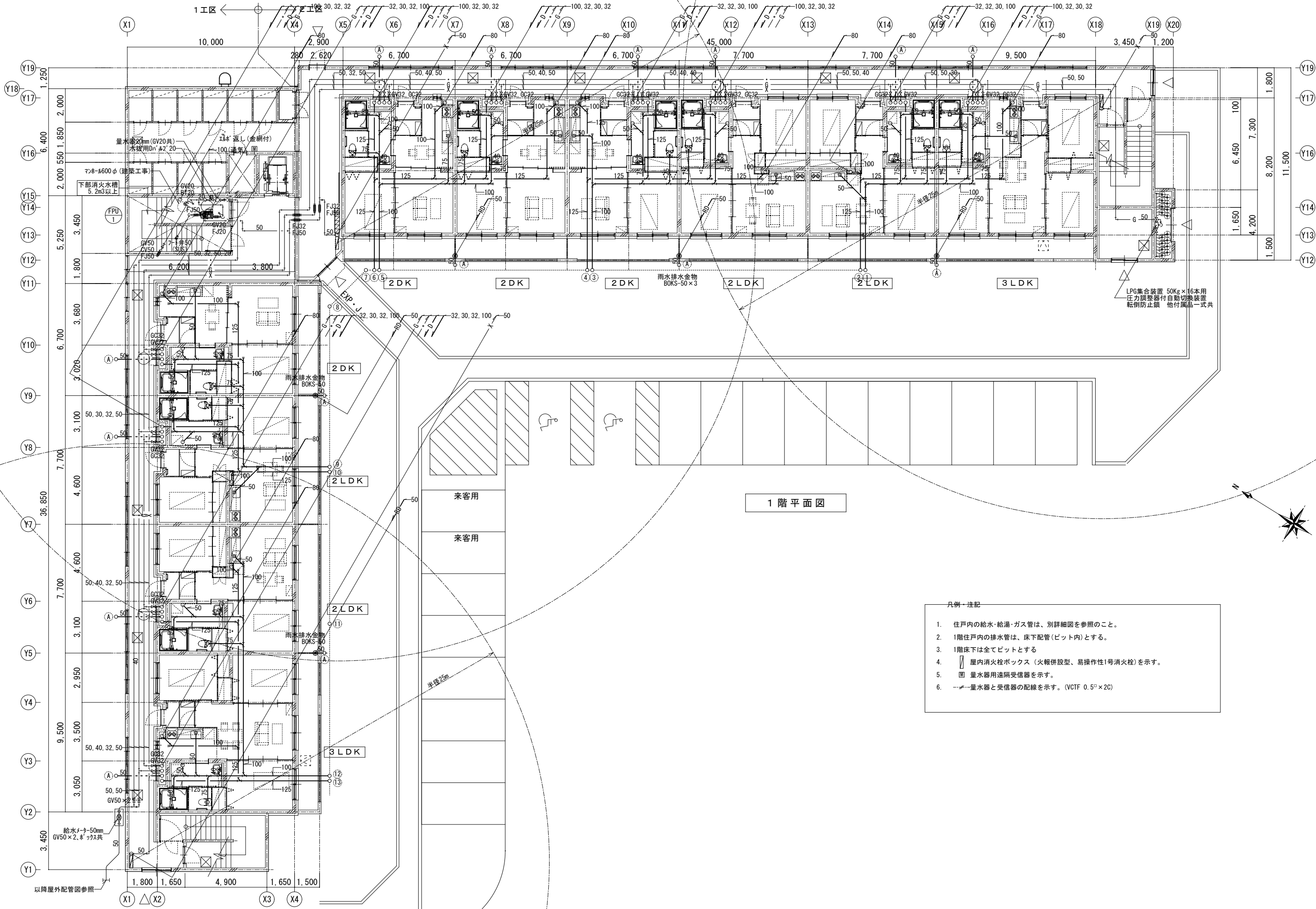


排水・通気配管系統

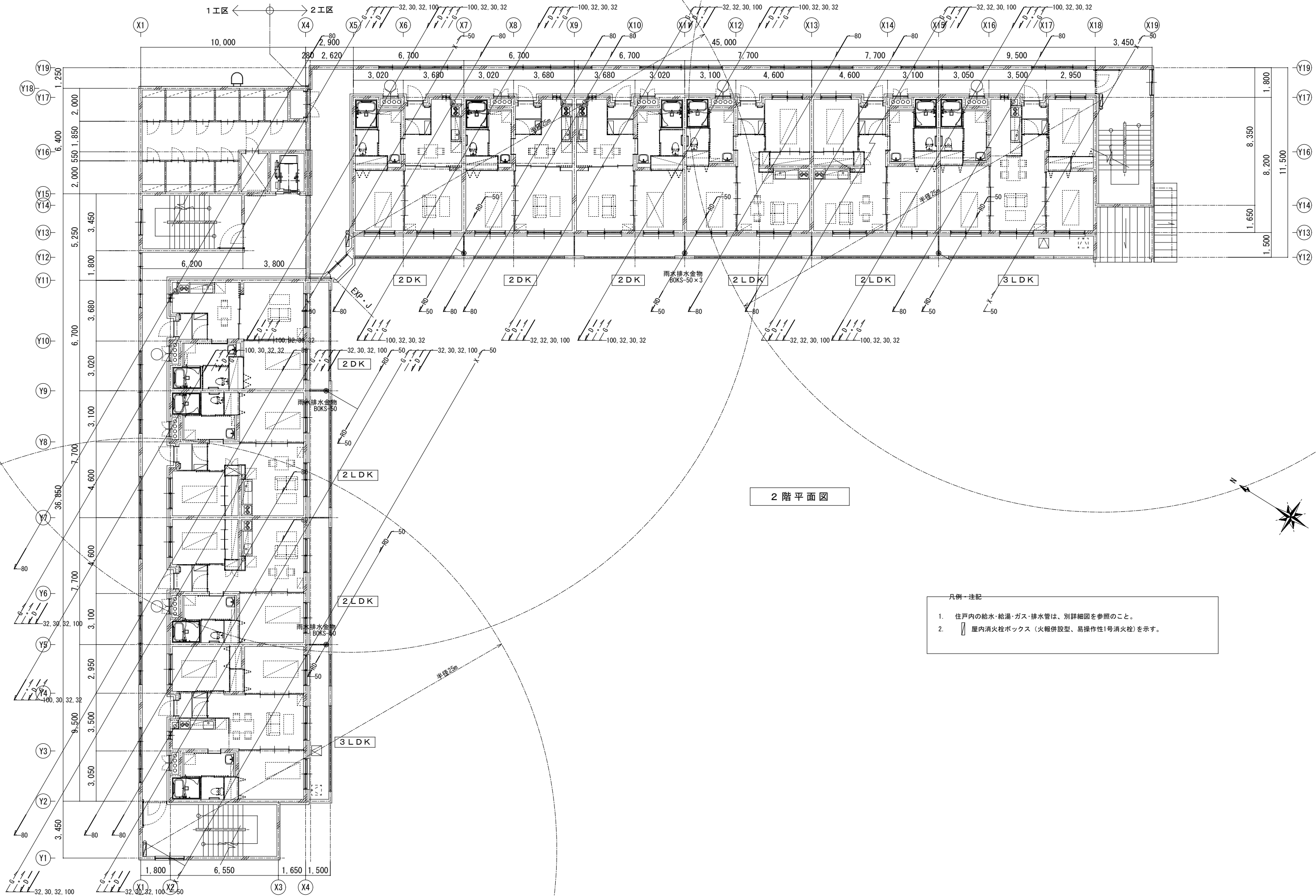
給水・給湯・ガス配管系統

給油配管系統







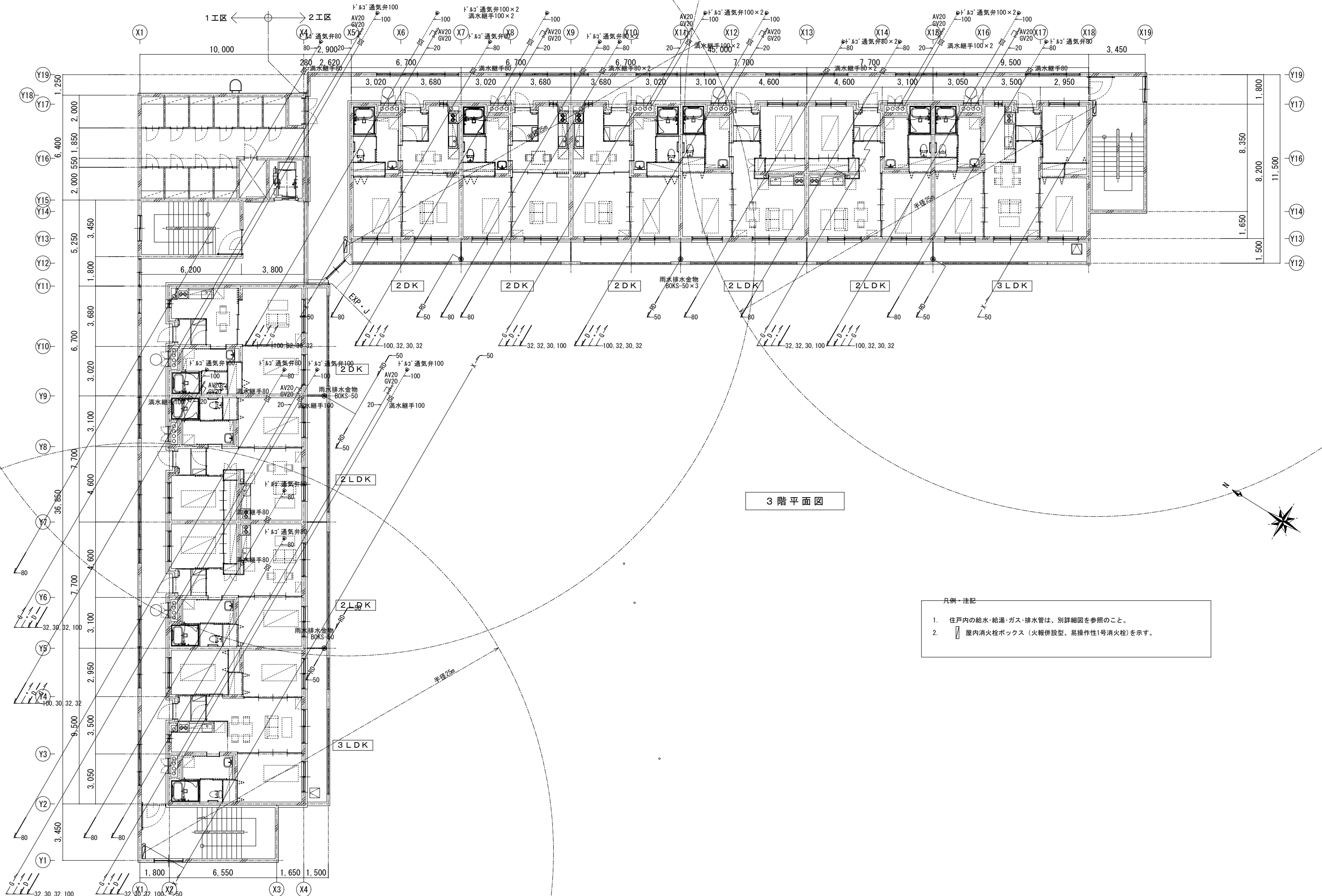


2 階 平 面 図

凡例・注記

- 住戸内の給水・給湯・ガス・排水管は、別詳細図を参照のこと。
- 屋内消火栓ボックス（火報併設型、易操作性1号消火栓）を示す。



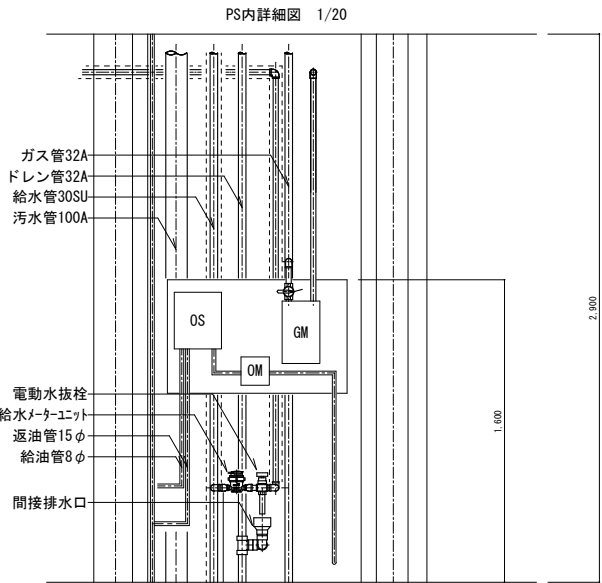
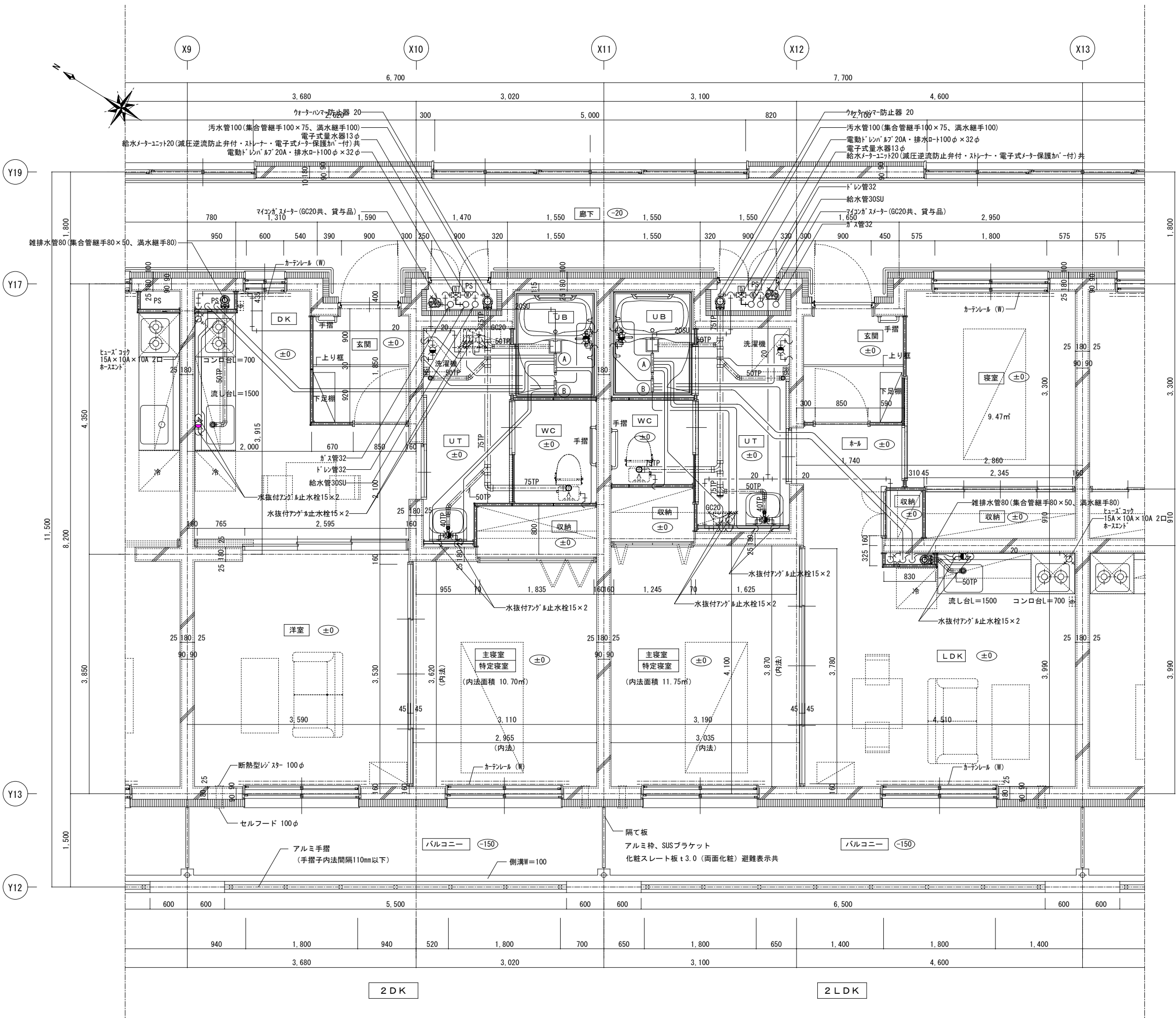


3階平面図

凡例・注記

- 住戸内の給水・給湯・ガス・排水管は、別詳細図を参照のこと。
- 屋内消火栓ボックス（火報併設型、易操作性1号消火栓）を示す。





- 凡例・注記
- 給水・給湯配管は、サヤ管ヘッダー方式(天井配管)とする。
  - 排水管はスラブ上ところがし配管とし、管種は耐火二層管(TP)する。
  - ガス管は天井配管とする。
  - 電動ドレンバルブ操作盤を示す。(配線VCTF 0.75<sup>2</sup>×20共、壁埋込型とする。)
  - ガス警報器一体型AC100Vを示す。(FL+300H以内、本体別途リス品)

(A)	給水ヘッダー	6分岐用、自動吸気弁15A付
(B)	給湯ヘッダー	4分岐用、自動吸気弁15A付

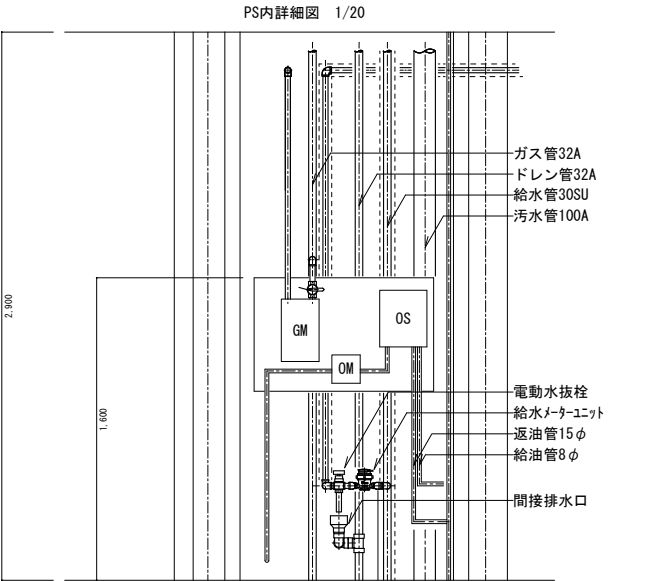
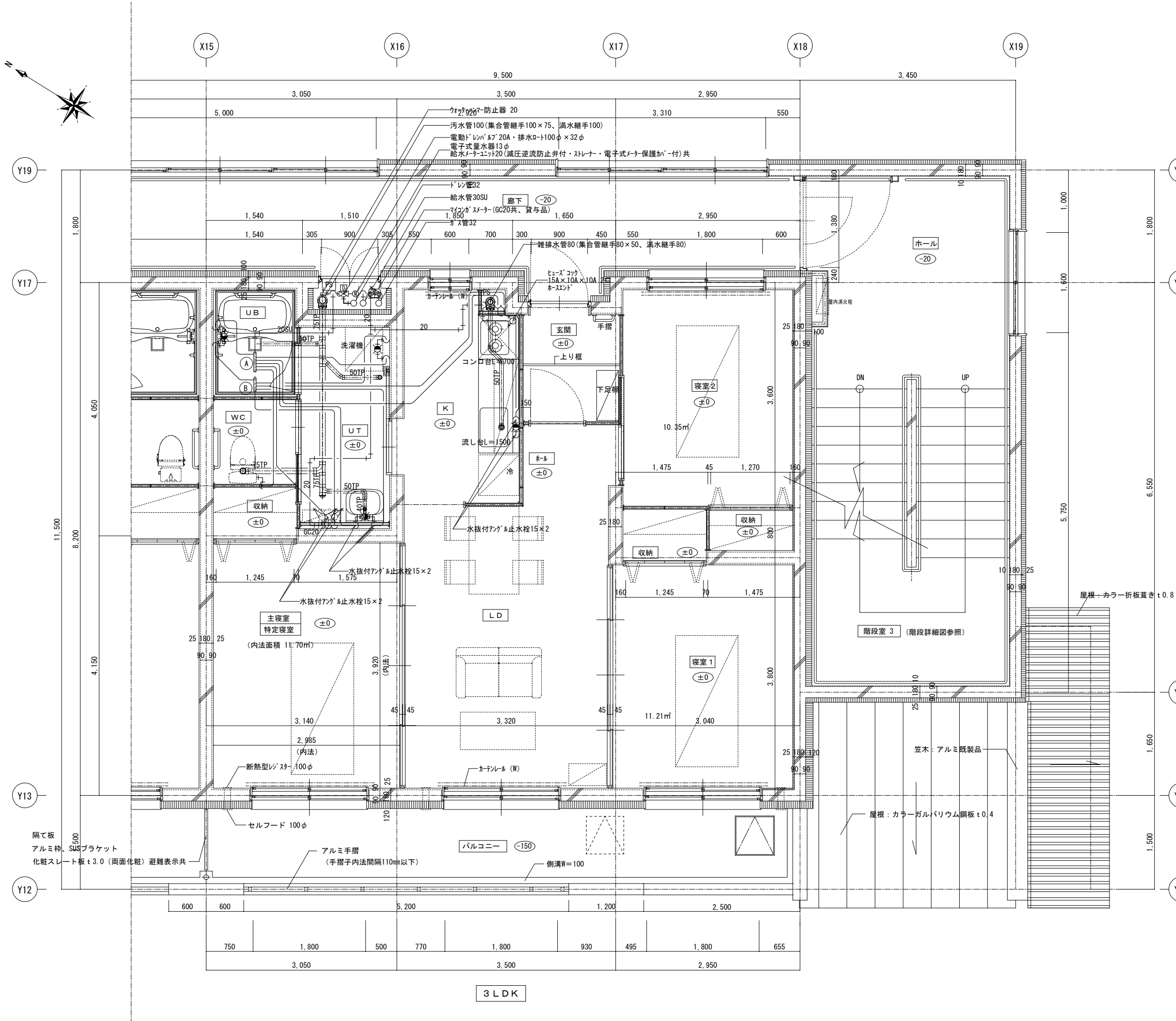
器 具	給 水		給 湯	
	架橋 <sup>®</sup> リフレ管	サヤ管	架橋 <sup>®</sup> リフレ管	サヤ管
洋風大便器	13φ	PF22φ	—	—
洗面化粧台	13φ	PF22φ	13φ	PF22φ
ユニットバス	13φ	PF22φ	13φ	PF22φ
台所流し水栓	13φ	PF22φ	13φ	PF22φ
洗濯機用混合水栓	13φ	PF22φ	13φ	PF22φ
ガス給湯器	16φ	PF28φ	16φ	PF28φ

- さや管ヘッダー方式に関する注意事項
- さや管敷設
    - さや管の曲げ半径及び曲げ箇所数は、下表の範囲とする。

内管	さや管	曲げ半径 (mm)		曲げ箇所数	
		水平部	立上がり部	水平部	立上がり部
13φ	22φ	450以上	150以上	3以下	2以下
16φ	28φ	500以上	250以上	3以下	2以下

      - 曲げ半径はできるだけ大きく、曲げ箇所数はできるだけ少なく、曲げ角度は90°以上とする。
      - さや管は横振れや不陸が生じないよう、固定間隔は直線部で22φの場合800mm以内、28φで500mm以内とし、曲がり部の固定間隔は300mm以内とすること。
      - さや管を途中で接続する場合は、専用のカップリングを仕様すること。
  - 通管
    - 無理な押し込みはしないこと。
    - 管が座屈したり異常が発生したら、必ず引き抜いて新たな管を通管し直すこと。
    - ヘッダーから水栓ボックスまでは、配管の途中で継ぎ足しはせず、1本で通管すること。
  - 水栓ボックスの取付
    - UBメーカーや建築工事と相談の上、さや管及び水栓ボックス用の固定板等を取り付けておくこと。
  - 養生
    - ヘッダー又は水栓器具を取り付けるまでに時間がある場合には、ビニールテープ等を巻いて管内部にゴミ・異物が入らないように養生する。
  - ウォーターハンマー対策
    - 管内流速が速くなるとウォーターハンマーも大きくなるので、給水圧力は0.2MPa (2kgf/cm<sup>2</sup>) 流速は2m/s以下になるように水圧を設定すること。
    - シングルレバー式の混合水栓の場合、配管とさや管の間に消音テープを巻き付けること。
  - 凍結対策
    - 水抜きを完全に行うため交差部はヘッダー付近及び立ち下げ部とし、水抜き後管内に水が残らないように配管経路を注意すること。
  - 接続方式
    - 継手の接続はメカニカル式とする。





- 凡例・注記
- 給水・給湯配管は、サヤ管ヘッダー方式(天井配管)とする。
  - 排水管はスラブ上ところがい配管とし、管種は耐火二層管(TP)する。
  - ガス管は天井配管とする。
  - 電動ドレンバルブ操作盤を示す。(配線VCTF 0.75×20共、壁埋込型とする。)
  - ガス警報器一体型AC100Vを示す。(FL+300H以内、本体別途リス品)

(A)	給水ヘッダー	6分岐用、自動吸気弁15A付
(B)	給湯ヘッダー	4分岐用、自動吸気弁15A付

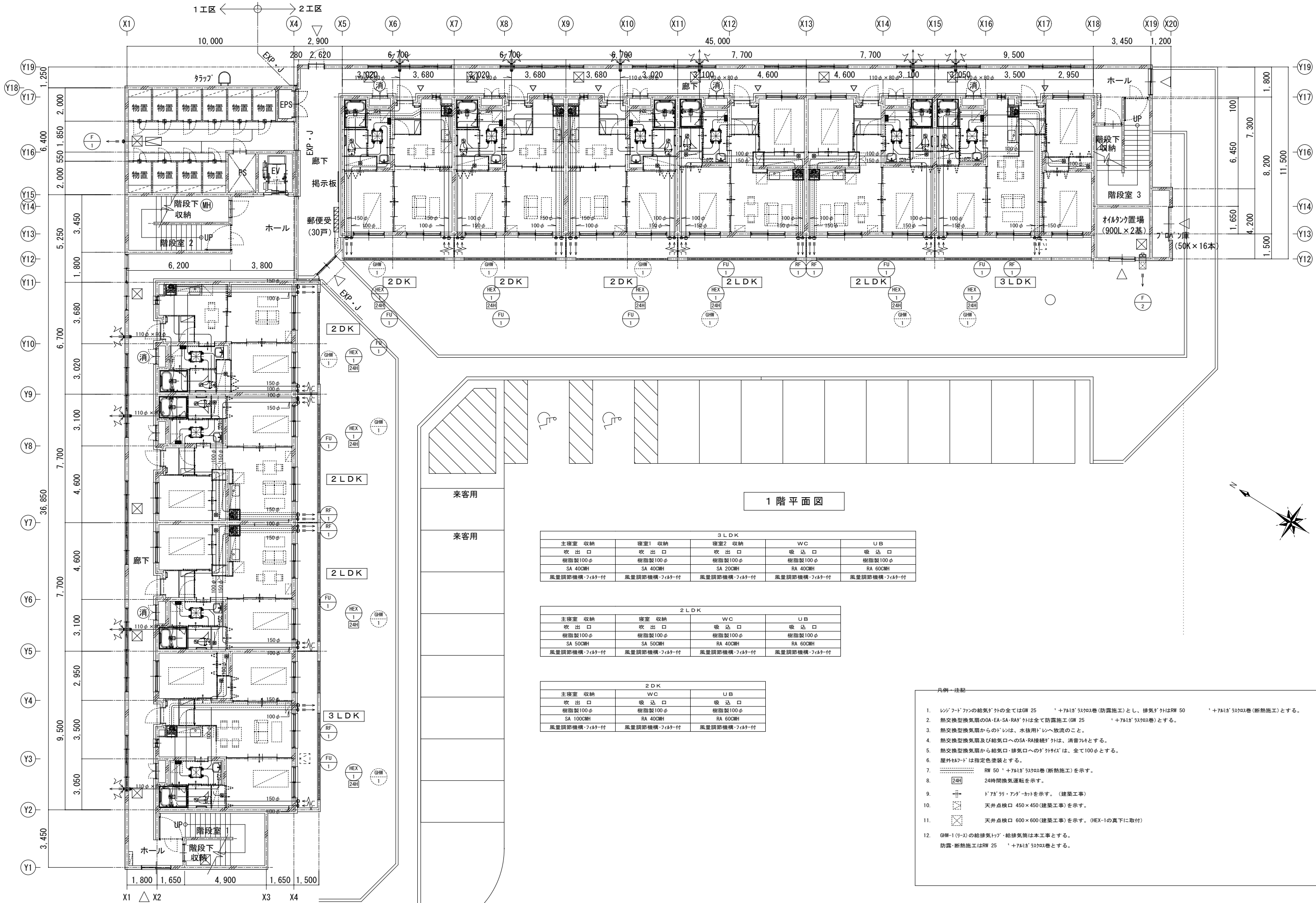
器 具	給 水		給 湯	
	架橋*リフレ管	サヤ管	架橋*リフレ管	サヤ管
洋風大便器	13φ	PF22φ	—	—
洗面化粧台	13φ	PF22φ	13φ	PF22φ
ユニットバス	13φ	PF22φ	13φ	PF22φ
台所流し水栓	13φ	PF22φ	13φ	PF22φ
洗濯機用混合水栓	13φ	PF22φ	13φ	PF22φ
ガス給湯器	16φ	PF28φ	16φ	PF28φ

- さや管ヘッダー方式に関する注意事項
- さや管敷設
    - さや管の曲げ半径及び曲げ箇所数は、下表の範囲とする。

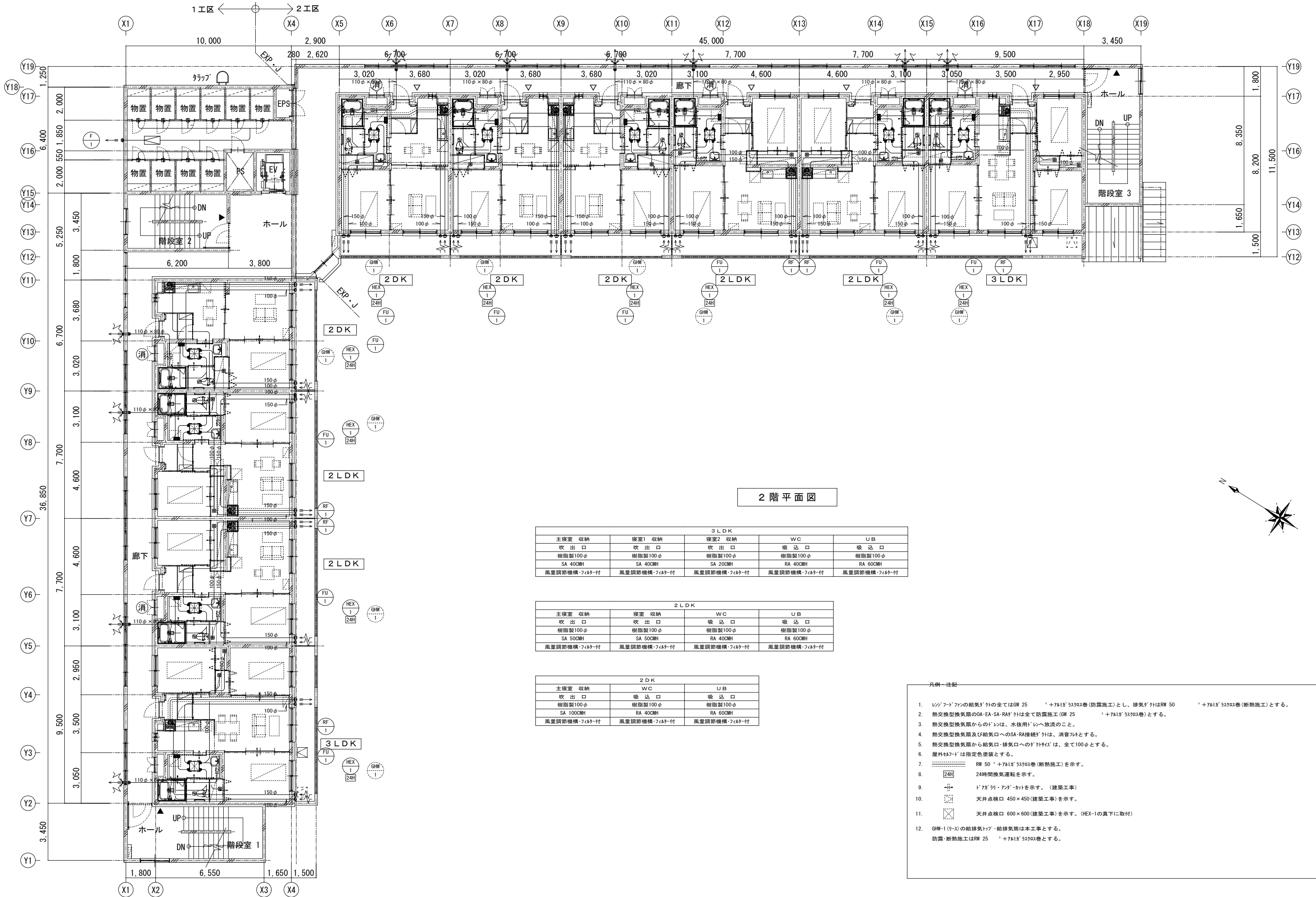
内管	さや管	曲げ半径 (mm)		曲げ箇所数	
		水平部	立上がり部	水平部	立上がり部
13φ	22φ	450以上	150以上	3以下	2以下
16φ	28φ	500以上	250以上	3以下	2以下

    - 曲げ半径はできるだけ大きく、曲げ箇所数はできるだけ少なく、曲げ角度は90°以上とする。
    - さや管は横振れや不陸が生じないよう、固定間隔は直線部で22φの場合800mm以内、28φで500mm以内とし、曲がり部の固定間隔は300mm以内とすること。
    - さや管を途中で接続する場合は、専用のカップリングを仕様すること。
  - 通管
    - 無理な押し込みはしないこと。
    - 管が座屈したり異常が発生したら、必ず引き抜いて新たな管を通管し直すこと。
    - ヘッダーから水栓ボックスまでは、配管の途中で継ぎ足しはせず、1本で通管すること。
  - 水栓ボックスの取付
    - UBメーカーや建築工事と相談の上、さや管及び水栓ボックス用の固定板等を取り付けておくこと。
  - 養生
    - ヘッダー又は水栓器具を取り付けるまでに時間がある場合には、ビニールテープ等を巻いて管内部にゴミ・異物が入らないように養生する。
  - ウォーターハンマー対策
    - 管内流速が速くなるとウォーターハンマーも大きくなるので、給水圧力は0.2MPa (2kgf/cm<sup>2</sup>) 流速は2m/s以下になるように水圧を設定すること。
    - シングルレバー式の混合水栓の場合、配管とさや管の間に消音テープを巻き付けること。
  - 凍結対策
    - 水抜きを完全に行うため交差部はヘッダー付近及び立ち下げ部とし、水抜き後管内に水が残らないように配管経路を注意すること。
  - 接続方式
    - 継手の接続はメカニカル式とする。









2 階平面図

3LDK				
主寝室 収納	寝室1 収納	寝室2 収納	WC	UB
吹出口	吹出口	吹出口	吸込口	吸込口
樹脂製100φ	樹脂製100φ	樹脂製100φ	樹脂製100φ	樹脂製100φ
SA 40CMH	SA 40CMH	SA 20CMH	RA 40CMH	RA 60CMH
風量調節機構・フィルター付	風量調節機構・フィルター付	風量調節機構・フィルター付	風量調節機構・フィルター付	風量調節機構・フィルター付

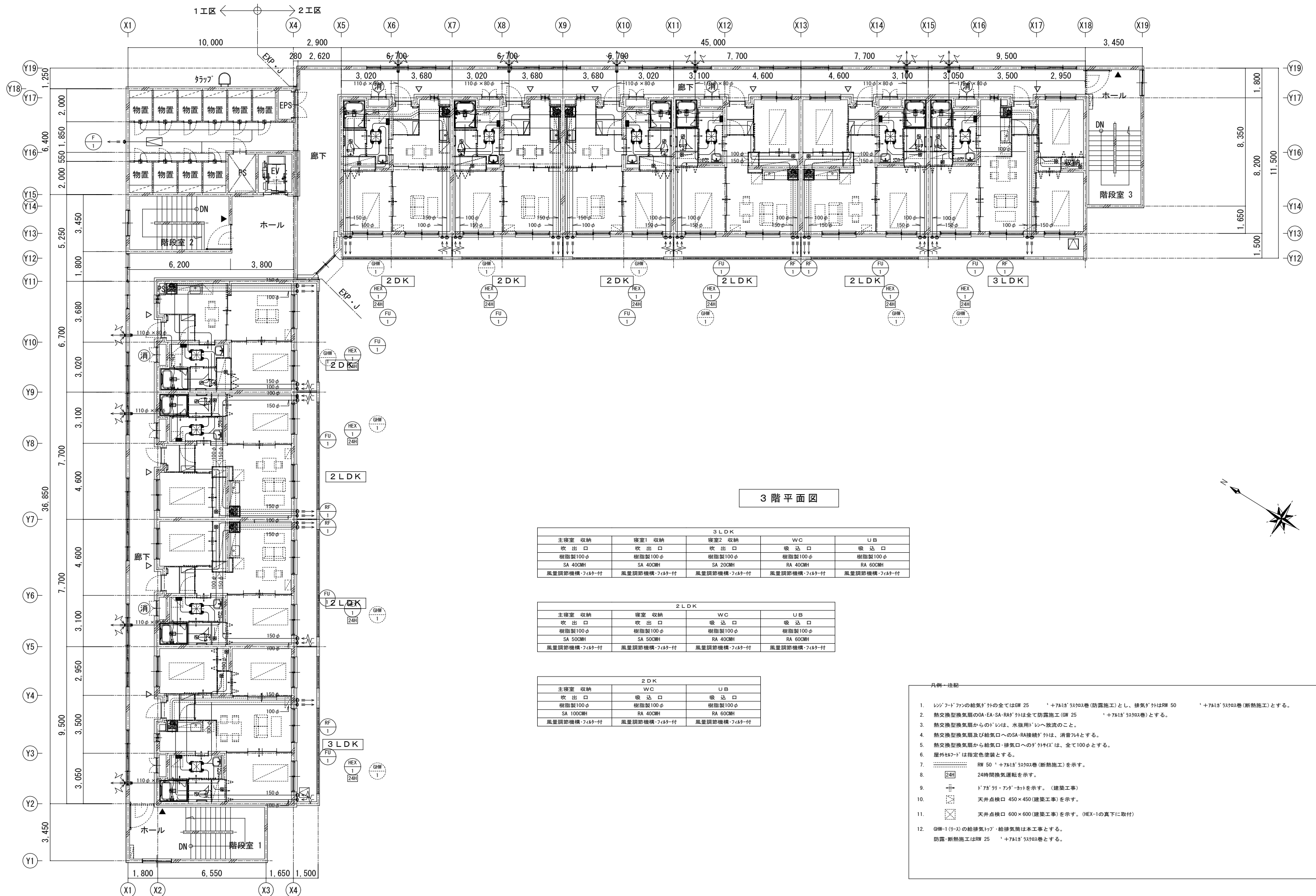
2LDK			
主寝室 収納	寝室 収納	WC	UB
吹出口	吹出口	吸込口	吸込口
樹脂製100φ	樹脂製100φ	樹脂製100φ	樹脂製100φ
SA 50CMH	SA 50CMH	RA 40CMH	RA 60CMH
風量調節機構・フィルター付	風量調節機構・フィルター付	風量調節機構・フィルター付	風量調節機構・フィルター付

2DK		
主寝室 収納	WC	UB
吹出口	吸込口	吸込口
樹脂製100φ	樹脂製100φ	樹脂製100φ
SA 100CMH	RA 40CMH	RA 60CMH
風量調節機構・フィルター付	風量調節機構・フィルター付	風量調節機構・フィルター付

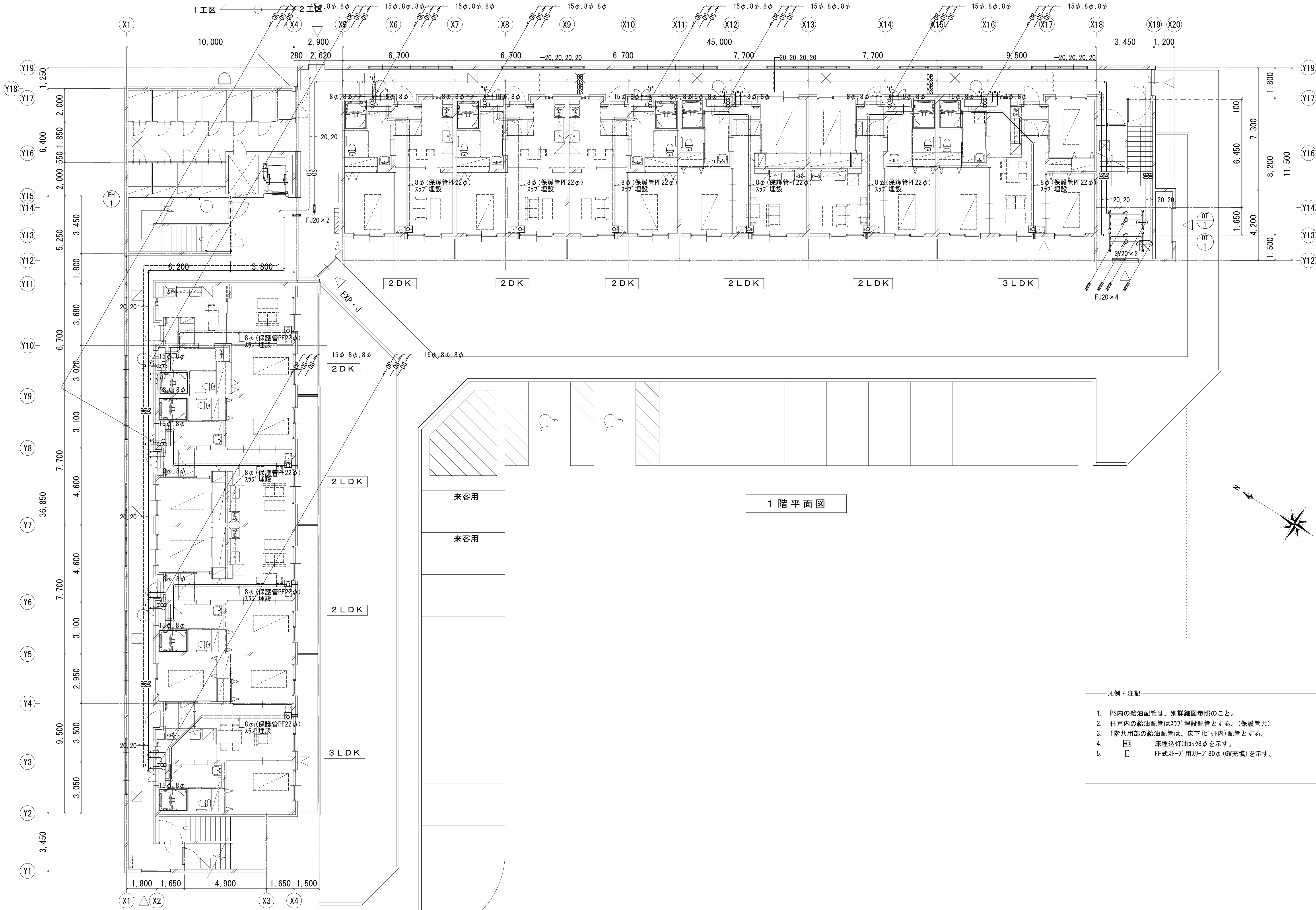
凡例・注記

- レンジフードの給気口外の全てはGW 25 ' +7&#228;シガラシカ2巻 (防露施工) とし、排気口はRW 50 ' +7&#228;シガラシカ2巻 (断熱施工) とする。
- 熱交換型換気扇のOA・EA・SA・RAの全ては断熱施工 (GW 25 ' +7&#228;シガラシカ2巻) とする。
- 熱交換型換気扇からのドレンは、水抜用ドレンへ放流のこと。
- 熱交換型換気扇及び給気口へのSA・RA接続は、消音7k4とする。
- 熱交換型換気扇から給気口・排気口へのダクトは、全て100φとする。
- 屋外機は指定色塗装とする。
- RW 50 ' +7&#228;シガラシカ2巻 (断熱施工) を示す。
- 24時間換気運転を示す。
- ドアの開口・アンダーカットを示す。 (建築工事)
- 天井点検口 450×450 (建築工事) を示す。
- 天井点検口 600×600 (建築工事) を示す。 (HEX-1の真下に取付)
- GHW-1 (9-ス) の給排気口・給排気筒は本工事とする。  
防露・断熱施工はRW 25 ' +7&#228;シガラシカ2巻とする。









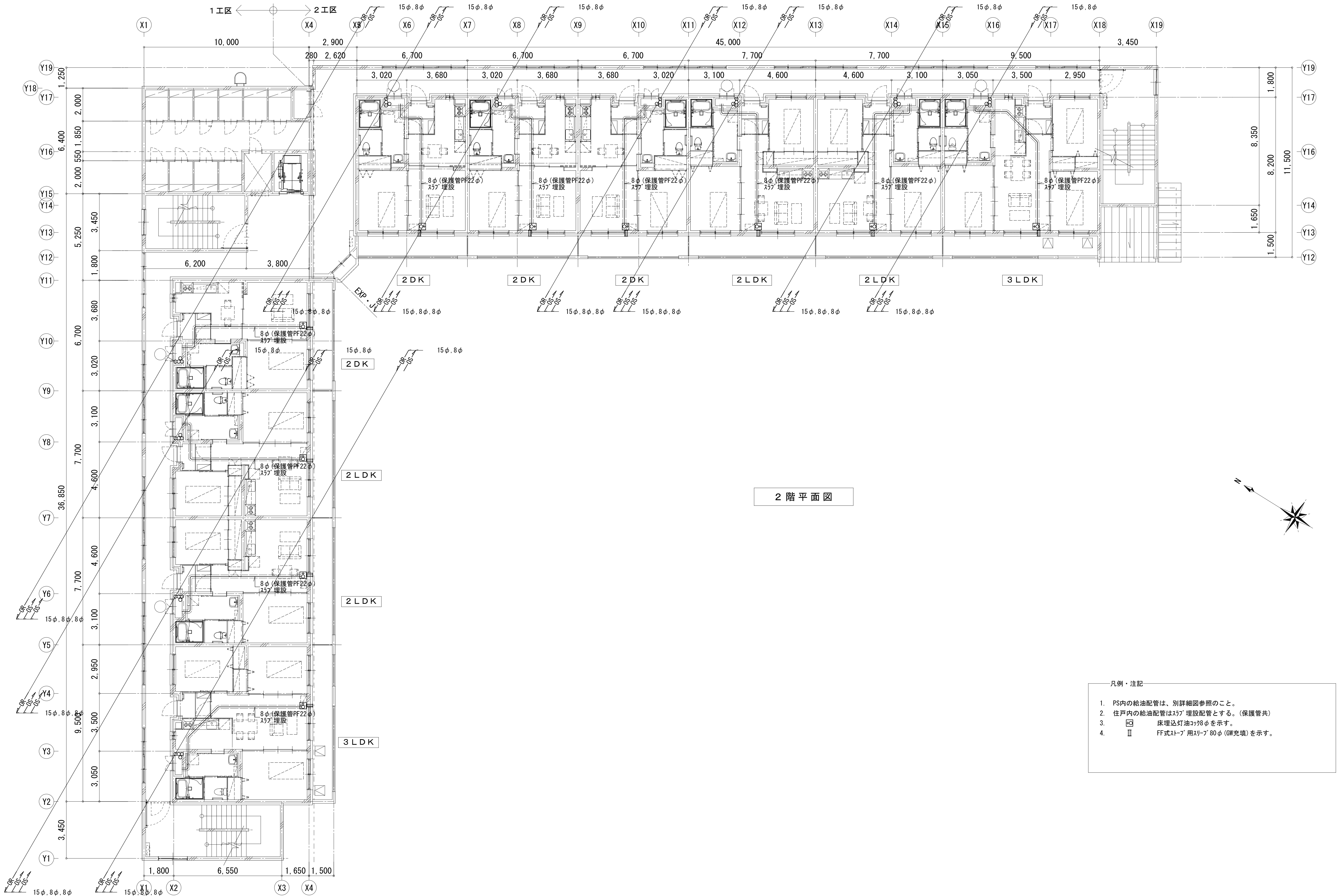




1 階 平 面 図

凡例・注記

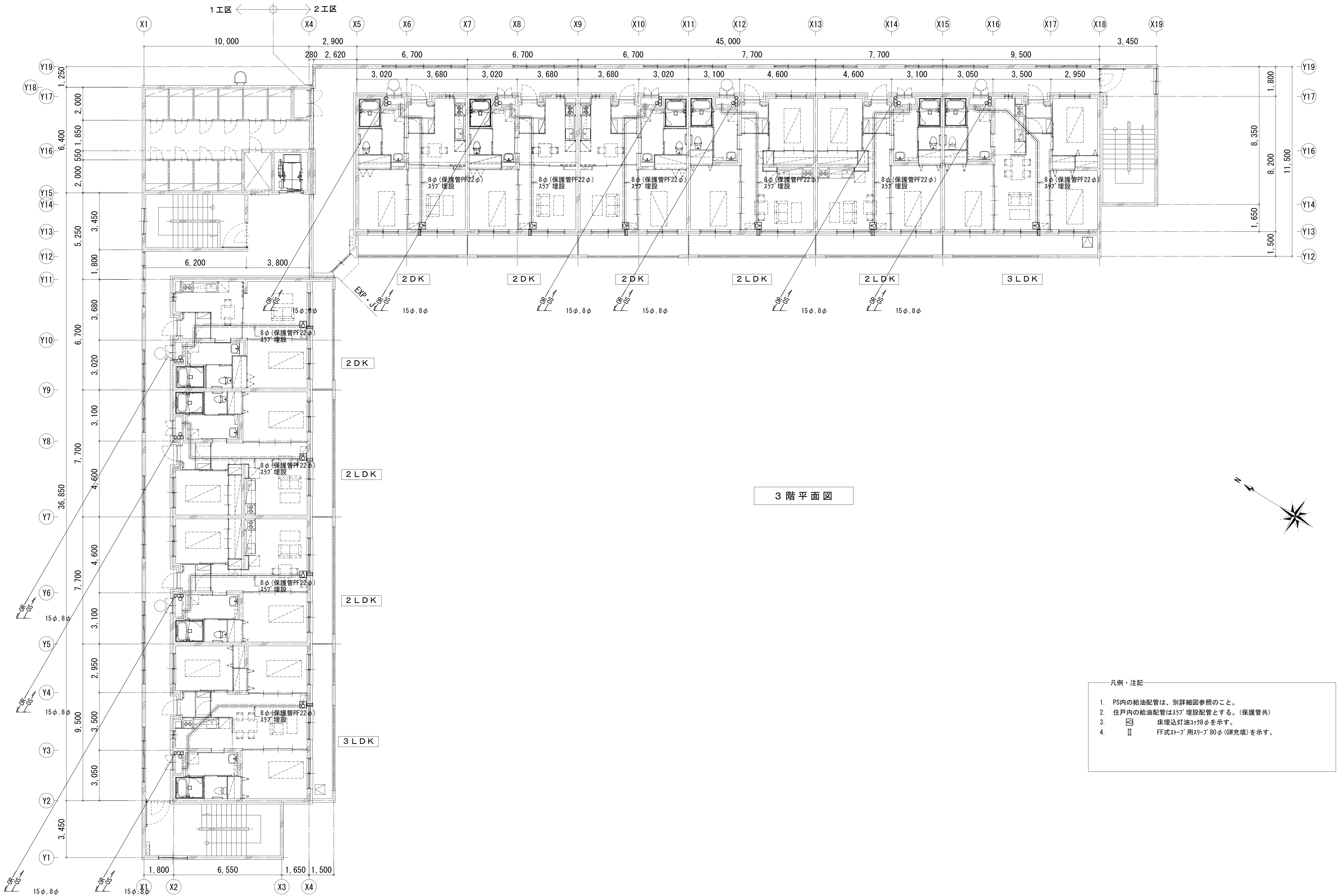
1. PS内の給油配管は、別詳細図参照のこと。
2. 住戸内の給油配管はスラッ埋設配管とする。(保護管共)
3. 1階共用部の給油配管は、床下(ビット内)配管とする。
4.  床埋込灯油コック8φを示す。
5.  FF式ストーブ用スリーブ80φ (GW充填)を示す。







- 凡例・注記
- PS内の給油配管は、別詳細図参照のこと。
  - 住戸内の給油配管はスリッパ埋設配管とする。(保護管共)
  -  床埋込灯油コック8φを示す。
  -  FF式ストップ用スリッパ80φ (GW充填)を示す。



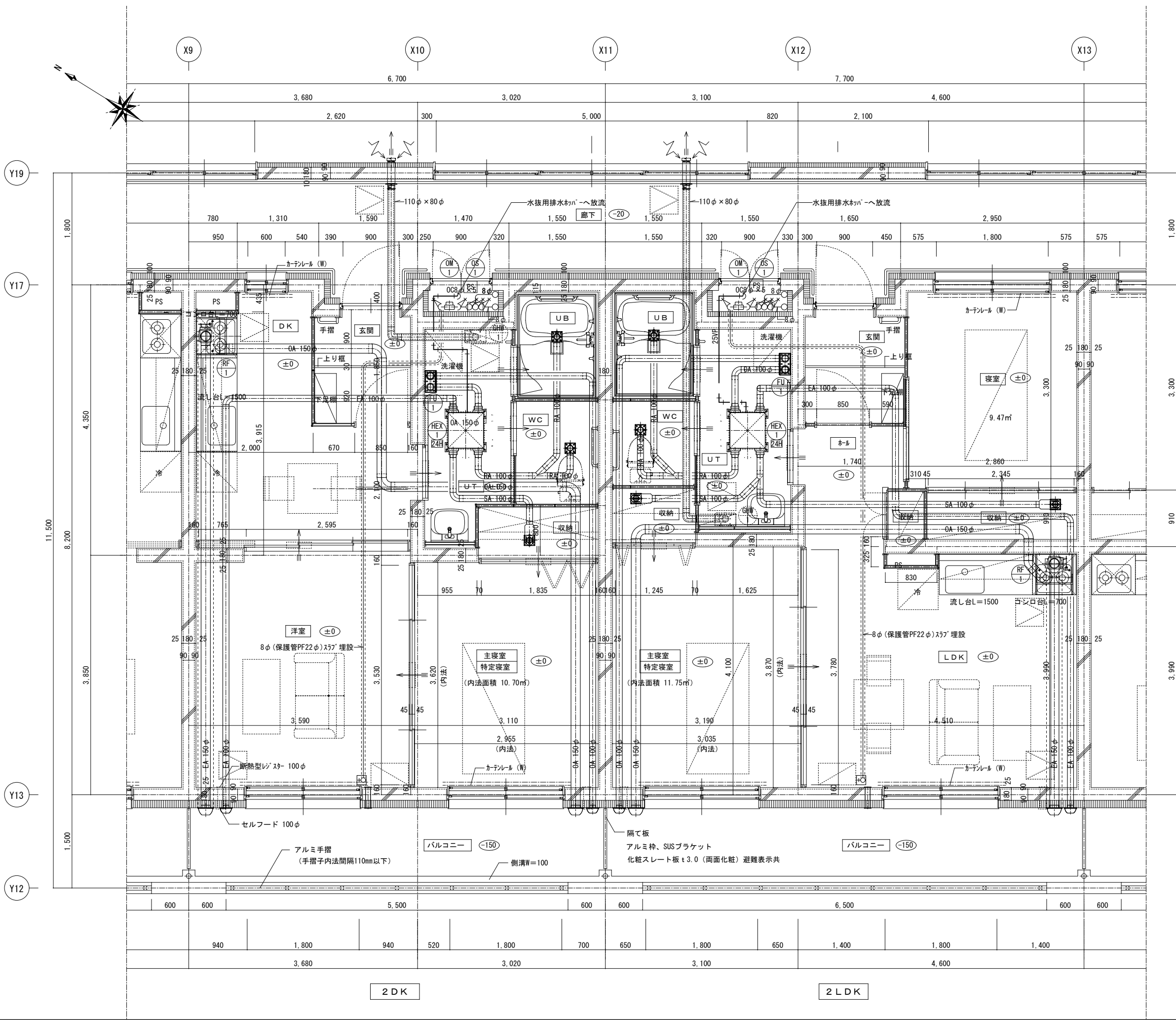


3階平面図

凡例・注記

- PS内の給油配管は、別詳細図参照のこと。
- 住戸内の給油配管はｽﾌﾟｰ 埋設配管とする。(保護管共)
-  床埋込灯油ｺｯｸ8φを示す。
-  FF式ｽﾄｰﾌﾞ 用ｽﾄｰﾌﾞ 80φ (GW充填)を示す。





PS内詳細図 1/20

ガス管32A  
ドレン管32A  
給水管30SU  
汚水管100A

電動水抜栓  
給水メーターユニット  
返油管15φ  
給油管8φ  
間接排水口

2DK		
主寝室 収納	WC	UB
吹出口	吸込口	吸込口
樹脂製100φ	樹脂製100φ	樹脂製100φ
SA 100CMH	RA 40CMH	RA 60CMH
風量調節機構・フィルター付	風量調節機構・フィルター付	風量調節機構・フィルター付

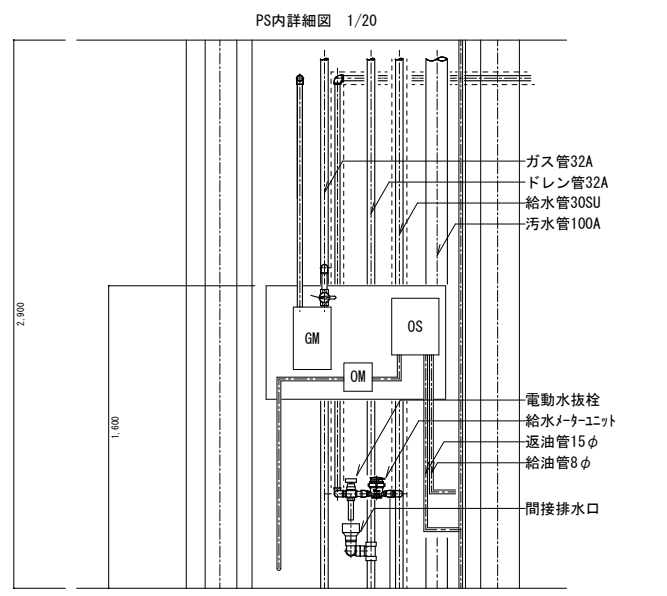
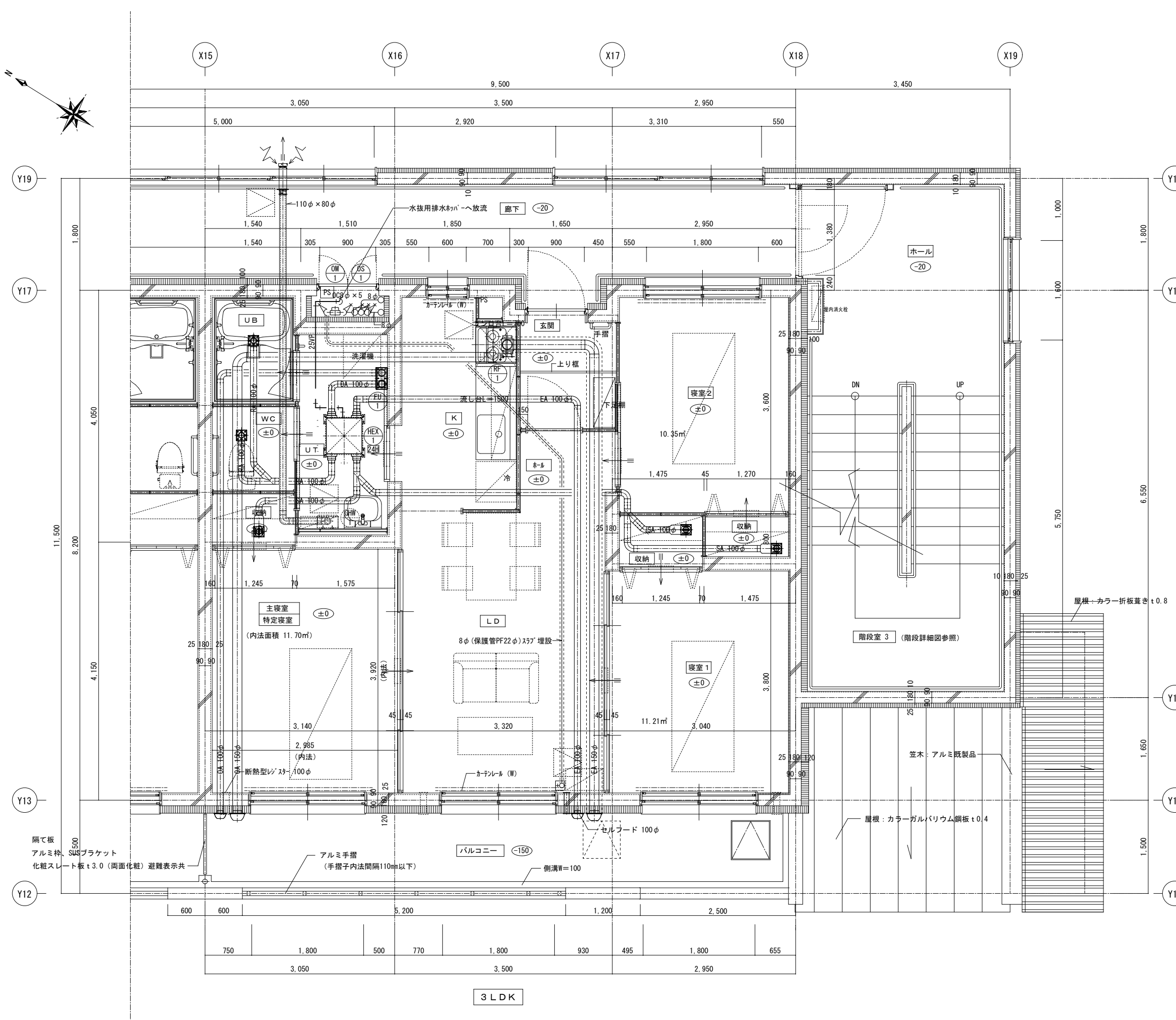
  

2LDK			
主寝室 収納	寝室 収納	WC	UB
吹出口	吹出口	吸込口	吸込口
樹脂製100φ	樹脂製100φ	樹脂製100φ	樹脂製100φ
SA 50CMH	SA 50CMH	RA 40CMH	RA 60CMH
風量調節機構・フィルター付	風量調節機構・フィルター付	風量調節機構・フィルター付	風量調節機構・フィルター付

凡例・注記

- レンジフードの給気ダクトの全てはGW 25' + アルミがスクロス巻(防露施工)とし、排気ダクトはRW 50' + アルミがスクロス巻(断熱施工)とする。
- 熱交換型換気扇のOA・EA・SA・RAダクトは全て防露施工(GW 25' + アルミがスクロス巻)とする。
- 熱交換型換気扇からのドレンは、水抜用ドレン管へ接続のこと。
- 熱交換型換気扇及び給気口へのSA・RA接続ダクトは、消音フルとする。
- 熱交換型換気扇から給気口・排気口へのダクトサイズは、全て100φとする。
- 屋外フードは指定色塗装とする。
- RW 50' + アルミがスクロス巻(断熱施工)を示す。
- 24H 24時間換気運転を示す。
- ドアカリ・アンダーカットを示す。(建築工事)
- 天井点検口 450×450(建築工事)を示す。
- 天井点検口 600×600(建築工事)を示す。(HEX-1の真下に取付)
- GW-1(リ-ス)の給排気トップ・給排気筒は本工事とする。  
防露・断熱施工はRW 25' + アルミがスクロス巻とする。
- FF式スト-ブ用リ-フ 80φ (GW充填)を示す。
- 床埋込灯油コックφを示す。
- 給油配管はスラブ埋設配管とする。(保護管共)





3LDK		
主寝室 収納	寝室1 収納	寝室2 収納
吹出口	吹出口	吹出口
樹脂製100φ	樹脂製100φ	樹脂製100φ
SA 40CMH	SA 40CMH	SA 20CMH
風量調節機構・フィルター付	風量調節機構・フィルター付	風量調節機構・フィルター付

3LDK	
WC	UB
吸込口	吸込口
樹脂製100φ	樹脂製100φ
RA 40CMH	RA 60CMH
風量調節機構・フィルター付	風量調節機構・フィルター付

- 凡例・注記
- レンジフードの給気ダクトの全てはGW 25' + アルミがスクロス巻 (防露施工) とし、排気ダクトはRW 50' + アルミがスクロス巻 (断熱施工) とする。
  - 熱交換型換気扇のOA・EA・SA・RAダクトは全て防露施工 (GW 25' + アルミがスクロス巻) とする。
  - 熱交換型換気扇からのドレンは、水抜用ドレン管へ接続のこと。
  - 熱交換型換気扇及び給気口へのSA・RA接続ダクトは、消音材とする。
  - 熱交換型換気扇から給気口・排気口へのダクトサイズは、全て100φとする。
  - 屋外フードは指定色塗装とする。
  - RW 50' + アルミがスクロス巻 (断熱施工) を示す。
  - 24H 24時間換気運転を示す。
  - ドアカリ・アンダーカットを示す。(建築工事)
  - 天井点検口 450×450 (建築工事) を示す。
  - 天井点検口 600×600 (建築工事) を示す。(HEX-1の真下に取付)
  - GW-1 (リ-ス) の給排気トップ・給排気筒は本工事とする。  
防露・断熱施工はRW 25' + アルミがスクロス巻とする。
  - FF式スト-ブ用リ-ブ 80φ (GW充填) を示す。
  - 床埋込灯油コック8φを示す。
  - 給油配管はスラブ埋設配管とする。(保護管共)